

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年9月17日
【計算期間】	特定21期（自 平成21年12月22日 至 平成22年6月21日）
【ファンド名】	三井住友・USボンドオープン（為替ノーヘッジ型）
【発行者名】	三井住友アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 前田 良治
【本店の所在の場所】	東京都港区愛宕二丁目5番1号
【事務連絡者氏名】	古池 典生
【連絡場所】	東京都港区愛宕二丁目5番1号
【電話番号】	03-5405-0739
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

イ 当ファンドは、USボンドマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、実質的に米国ドル建ての公社債に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

ロ 委託会社は、受託会社と合意の上、金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。この限度額は、委託会社、受託会社の合意により変更できます。

ハ 当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

（イ）当ファンドが該当する商品分類

項目	該当する商品分類	内容
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	海外	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 （収益の源泉）	債券	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

（ロ）当ファンドが該当する属性区分

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（債券 一般））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載しています。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は債券であり、ファンドの収益は債券市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「債券」となります。
決算頻度	年4回	目論見書または信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	北米	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド	目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいいます。

為替ヘッジ	為替ヘッジなし	目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
-------	---------	---

《商品分類表》

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
		債券
	海外	不動産投信
追加型		その他資産
	内外	(資産複合)

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

《属性区分表》

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年 1 回	グローバル		
	年 2 回	日本		
	年 4 回	北米	ファミリーファンド	あり
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ()	年 6 回 (隔月)	欧州		
	年 12 回 (毎月)	アジア		
	日 々	オセアニア		
	その他 ()	中南米	ファンド・オブ・ファンズ	なし
不動産投信		アフリカ		
その他資産 (投資信託証券(債券 一般))		中近東(中東)		
資産複合 () 資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

※商品分類、属性区分は、社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載しています。商品分類、属性区分の全体的な定義等は社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

（２）【ファンドの沿革】

平成12年1月28日	信託契約締結、設定、運用開始。 （設定時の委託会社はスミセイ グローバル投信株式会社）
平成14年12月1日	三井住友アセットマネジメント株式会社が、合併によりファンドの委託会社としての業務を承継。「スミセイ・ＵＳボンドオープン（為替ノーヘッジ型）」から「三井住友・ＵＳボンドオープン（為替ノーヘッジ型）」に名称を変更。

（３）【ファンドの仕組み】

イ 当ファンドの関係法人とその役割

（イ）委託会社 「三井住友アセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）および運用報告書の作成等を行います。

（ロ）受託会社 「住友信託銀行株式会社」

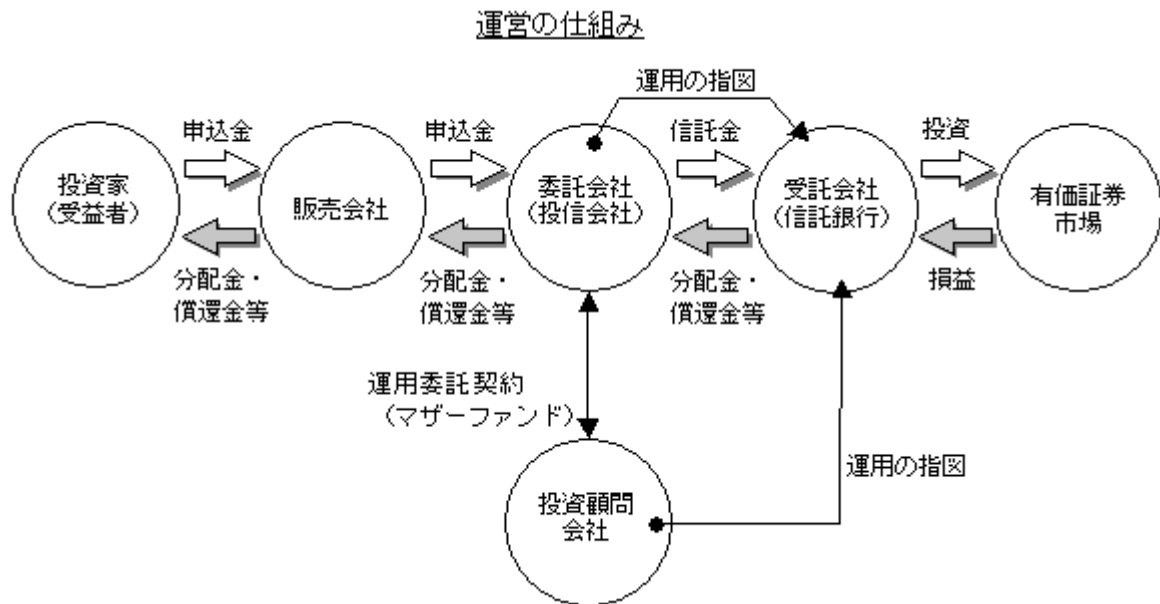
証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

（ハ）販売会社

委託会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問いません。）に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。

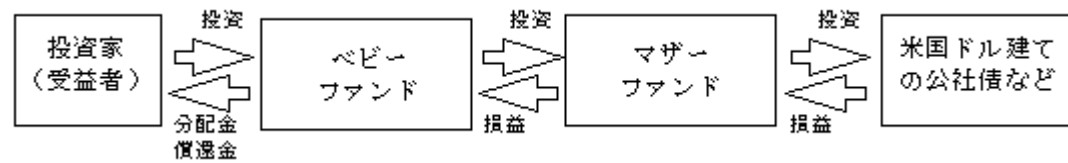
（ニ）投資顧問会社（運用の委託先） 「ルーマス・セイレス・アンド・カンパニー・エル・ピー」（以下ルーマス・セイレス社といいます。）

委託会社との間で締結される投資一任契約（運用委託契約）に基づき、マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。



※ 当ファンドの運用は、「ファミリーファンド方式」で行われます。

「ファミリーファンド方式」とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、受益者の資金をまとめて「ベビーファンド」とし、「ベビーファンド」の資金の全部または一部を「マザーファンド」に投資することにより、実質的な運用は「マザーファンド」において行う仕組みです。



ロ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

2,000百万円（平成22年7月30日現在）

(ロ) 会社の沿革

昭和60年7月15日 三生投資顧問株式会社設立

昭和62年2月20日 証券投資顧問業の登録

昭和62年6月10日 投資一任契約にかかる業務の認可

平成11年1月1日 三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合

平成11年2月5日 三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更

平成12年1月27日 証券投資信託委託業の認可取得

平成14年12月1日 住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更

(ハ) 大株主の状況

（平成22年7月30日現在）

名称	住所	所有 株式数	比率 (%)
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	7,056	40.0
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	4,851	27.5
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町一丁目1番2号	4,851	27.5
三井生命保険株式会社	東京都千代田区大手町二丁目1番1号	882	5.0

2【投資方針】

（１）【投資方針】

イ 基本方針

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に米国ドル建ての公社債に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

ロ 投資態度

- （イ）主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、米国ドル建ての社債のほか、米国ドル建ての国債、地方債を含む政府機関債、転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債、モーゲージ担保債務証券を含むモーゲージ証券、資産担保証券、米国1933年証券取引法規則144Aに定められる有価証券、その他の外国債（ヤンキー、ユーロ等）および短期金融商品等を主要投資対象として、インカム・ゲインの確保とともにキャピタル・ゲインの獲得を目指して運用を行います。
- （ロ）ポートフォリオの構築にあたっては、マザーファンドの組入れを高率とすることを基本とします。
- （ハ）実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。

（２）【投資対象】

イ 投資対象とする資産の種類

当ファンドが投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- （イ）次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項の「特定資産」をいいます。以下同じ。）
 - 1. 有価証券
 - 2. 金銭債権
 - 3. 約束手形
- （ロ）特定資産以外の資産で、以下に掲げる資産
 - 1. 為替手形

ロ 投資対象とする有価証券

委託会社は、信託金を主としてマザーファンド受益証券に投資するほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1. 株券または新株引受権証券
- 2. 国債証券
- 3. 地方債証券
- 4. 特別の法律により法人の発行する債券
- 5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
- 6. コマーシャルペーパー

7. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、第2号から第5号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

ハ 投資対象とする金融商品

委託会社は、信託金を上記の有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

（3）【運用体制】

イ 運用体制

当ファンドの運用の主要部分は、委託会社からマザーファンドの運用の指図に関する権限の一部の委託を受けたルミス・セイレス社が、投資一任契約（運用委託契約）およびそれに付随するガイドラインに従って行います。

委託会社においては、追加設定・一部解約に伴う資金の流出入の管理、運用委託先への委託資産の増減の指示、余裕資金の運用等および運用委託先の運用状況（ガイドライン等の遵守状況、運用パフォーマンスなど）のモニタリング等を行います。

ロ 委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

ファンドの受託会社に対しては、信託財産の日常の管理業務（保管・管理・計算等）を通じて、信託事務の正確性・迅速性の確認を行い、問題がある場合は適宜改善を求めています。

運用委託先に対しては、運用内容に関する十分な情報開示を求め、投資判断と委託の内容に齟齬がないかを確認します。また、定性・定量面における運用委託先の評価を継続的に実施します。

運用委託先管理部会において運用委託先との契約について年1回見直しの検討および継続可否判断等を行い、運用実績に優位性がある等の合理的理由のないままでの契約の継続は行いません。

【参考情報】

ルミス・セイレス社の運用体制



ルミス・セイレス社では、ポートフォリオ・マネージャー、リサーチ部門、トレーダー、コンプライアンス部門が協力し、ポートフォリオを運用しています。先行き予測に基づく投資判断を重視するチーム体制で、順調な成長段階に向かっており、相対的に企業価値の上昇しそうな発行体を見出すことに注力しています。

ルミス・セイレス社では主に主観的かつ自由裁量の運用を行っており、リサーチ部門に年間約5,000万米ドル（2010年）の予算を費やしています。クオンツモデルは持たず、日々デイリーベースの膨大なデータをチェックし、その方向性から相場への示唆を分析しています。例えば、トレーディング・レンジ、流動性の動向、共分散分析などが挙げられますが、そうした指標を分析することで、最も魅力的な投資機会を見出す努力を図っています。また、アナリストによるルミス・セイレス社独自のキャッシュフロー予測モデル、利益予測モデルを用いた分析も活用しています。

債券アナリストはキャッシュフロー予測などの分析を活かして、産業、個別企業、政治面におけるニュース、成長、トレンドの変化、そうした事象が債務格付けに与える影響の適正な評価を行い、ポートフォリオ・マネージャーをサポートしています。アナリストは個々の発行体の信用力、セクター全体の適正な金利水準を検討、設定しています。また、異なるセクター間における評価については、トレーディング部門と協議しています。こうしたイールドレベルの見通しと、先行き見通しを比較しているため、アナリストの銘柄推奨はセクターや個別銘柄の分析が基となっていると言えます。

トレーダーはマーケットにおけるポートフォリオ・マネージャーの「目」と「耳」の役割を果たしています。トレーダーはリサーチ部門の分析を反映しながら、自らも相対価値分析を行い、最適な投資機会を追求しています。ルミス・セイレス社の優れたトレーディング能力はルミス・セイレス社の競争力の源泉であり、売買コストやマーケット・リスクの低減に寄与しています。

ポートフォリオ・マネージャーは、顧客のガイドライン、アナリストの見通し、トレーダーからの売買可能銘柄の提示を受けながら、組入銘柄の選択を行います。ポートフォリオ・マネージャーがポートフォリオの最終意思決定者であり、債券運用グループの内規や運用方針の範囲内で運用する責任を負っています。

（４）【分配方針】

毎決算時（３月20日、６月20日、９月20日および12月20日。休業日の場合は翌営業日となります。）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- イ 分配対象額は、経費控除後の利子、配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ロ 委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。
- ハ 留保金の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

（５）【投資制限】

Ⅰ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- イ 株式への投資は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
- ロ 同一銘柄の株式への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ハ 同一発行者が発行する証券（株式を除く。）への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。ただし、国債証券、米国財務省の発行する財務省証券およびその他の政府機関または政府関係公社の発行する証券はこの限りではありません。

※実質投資割合とは、当ファンドが保有するある種類の資産の評価額が当ファンドの純資産総額に占める比率（「組入比率」といいます。）と、当該同一種類の資産のマザーファンドにおける組入比率に当該マザーファンド受益証券の当ファンドにおける組入比率を乗じて得た率を合計したものをいいます（以下同じ。）。

ニ 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

II ファンドの信託約款に基づくその他の投資制限

イ 資金の借入れ

- （イ）委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
 - （ロ）一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
 - （ハ）収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- （ニ）借入金の利息は信託財産中より支弁します。

III 法令に基づく投資制限

イ 同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

ロ デリバティブ取引にかかる投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

（参考情報：USボンドマザーファンドの投資方針等）

（1）投資方針等

イ 基本方針

主として米国ドル建ての公社債に投資を行い、安定した収益の確保と売買益の獲得を目指して運用を行います。

ロ 投資態度

（イ）主として米国ドル建ての社債のほか、米国ドル建ての国債、地方債を含む政府機関債、転換社債および転換社債型新株予約権付社債、モーゲージ担保債務証券を含むモーゲージ証券、資産担保証券、米国1933年証券取引法規則144Aに定められる有価証券、その他の外国債（ヤンキー、ユーロ等）および短期金融商品等を主要投資対象として、インカム・ゲインの確保とともにキャピタル・ゲインの獲得を目指して運用を行います。

（ロ）投資する主要投資対象の加重平均格付けは、A－またはA3格以上を維持することを基本とします。格付けについては、スタンダード・アンド・プアーズ（以下「S & P」といいます。）またはムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（以下「ムーディーズ」といいます。）の付与した高いほうの格付けを採用します。なお、投資する公社債等につきましては、上記両社のうち少なくとも1社の格付けを取得しているものに限定します。

※債券の格付けは、債券の元本、利払いの確実性の度合いを表すもので、S & Pやムーディーズ等の格付機関が格付けをしています。S & Pおよびムーディーズは、世界的に認知度の高い格付機関です。

格付け	S & P	ムーディーズ	
（高い）	A A A	A a a	
	A A	A a	
	A	A	
	B B B	B a a	投資適格債
	B B	B a	
	B	B	
	C C C	C a a	当ファンドの 加重平均格付け
	C C	C a	
（低い）	C	C	高利回り

各格付けにおいて、S & Pはプラス・マイナスで、ムーディーズは1～3で、さらに分類されます。当ファンドの加重平均格付けは、A－またはA3格です。

（ハ）ポートフォリオの構築にあたっては、以下の点を目標として行います。

- 独自の格付け変更予測に基づく銘柄選定を行います。
- 高利回り債（BB＋またはBa1以下の格付けの債券）と、それ以外の債券の組入れにより運用成績の安定化とリスクの分散を目指します。

なお、高利回り債への投資は、転換社債および転換社債型新株予約権付社債を含み、信託財産の純資産総額の20%以内とします。

c. 個別発行企業に対する調査に基づく銘柄選定を行います。

(二) 外貨建資産に対する為替ヘッジは行いません。

(ホ) 運用にあたっては、運用委託契約に基づきルミス・セイレス社に外貨建資産についての運用指図に関する権限を委託します。

(ヘ) 資金動向や市況動向によっては、前記のような運用ができない場合があります。

【ルーマ・セイレス社の概要】

イ ルーマ・セイレス社は、1926年に、米国でも最古の歴史を誇るリサーチ・アナリストにより設立された運用会社です。現在では、年金を含む大規模機関投資家と富裕層の投資家に向けて、約1,450億米ドル（約13.5兆円。2010年3月31日現在）の資産運用を行っています。

ロ ルーマ・セイレス社の特徴

ルーマ・セイレス社の設立当初からの運用の特徴として、独自の調査結果を資産運用に積極的に活用してきたことがあげられます。各アナリストは、業界毎の分析に責任を持ち、その調査レポートは正式にファイルされ、その結果によって彼らの報酬等が決められます。

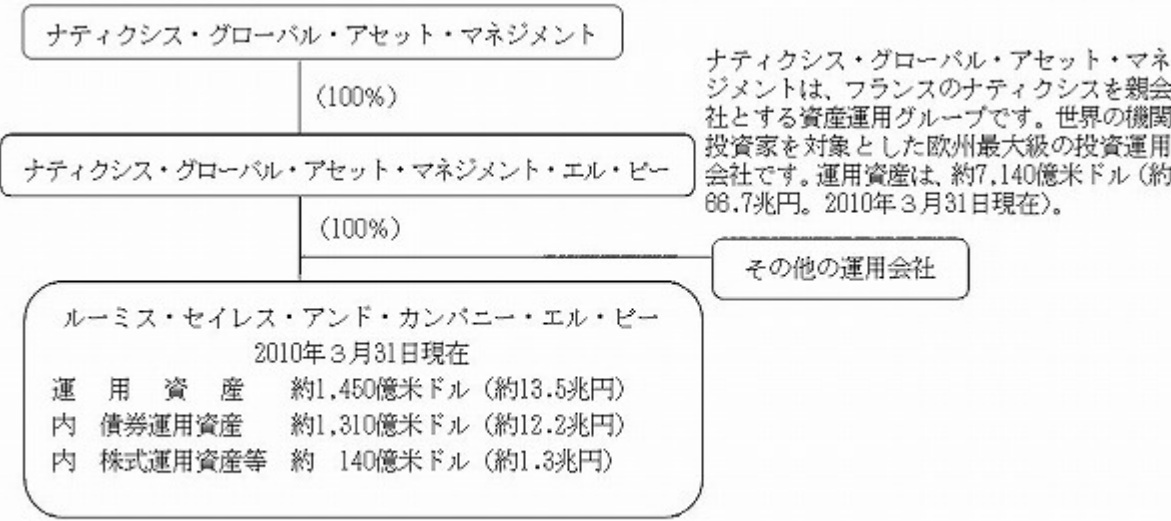
この調査部の調査能力によって、重要な運用機会の早期発見に成功してきたことにより、運用部門と調査部門の見事な連携が築き上げられてきました。

債券調査部では、キャッシュ・フロー分析、業界・政治的要因、経済動向、クレジット別のスプレッド分析などの分析を行っています。

アナリストは、このような要因から格付機関の格付変更を予測し、将来の格下げ銘柄を避け、格上げ銘柄に投資できる機会の発見を追求します。この同社独自の格付システムは、ムーディーズ、S & Pと並んで全米で最も古いもののひとつです。

株式調査部では、アナリストが担当業界でベストなパフォーマンスを示す企業を発掘することに努めます。そのために、中期的な利益動向、キャッシュフロー、投資家の期待要因、リストラクチャリング等の分析を行い、各企業を格付けしています。

ハ ルーマ・セイレス社の資本関係および運用資産



※データは2010年3月31日現在、WMLレートにより換算：1米ドル＝93.440円

（２）投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「２ 投資方針 （２）投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類およびデリバティブ取引にかかる権利となります。

ロ 投資対象とする有価証券

委託会社および委託会社から委託を受けたルーマス・セイレス社は、信託金を主として次の有価証券に投資することを指図します。

- １．国債証券
- ２．地方債証券
- ３．特別の法律により法人の発行する債券
- ４．社債券（新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- ５．特定目的会社にかかる特定社債券（金融商品取引法第２条第１項第４号で定めるものをいいます。）
- ６．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第２条第１項第６号で定めるものをいいます。）
- ７．協同組織金融機関にかかる優先出資証券（金融商品取引法第２条第１項第７号で定めるものをいいます。）
- ８．特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第２条第１項第８号で定めるものをいいます。）
- ９．投資法人債券（金融商品取引法第２条第１項第１１号で定めるものをいいます。）
- １０．コマーシャル・ペーパー
- １１．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- １２．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第２条第１項第１８号で定めるものをいいます。）
- １３．オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第２条第１項第１９号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。）
- １４．預託証書（金融商品取引法第２条第１項第２０号で定めるものをいいます。）
- １５．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- １６．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第２条第１項第１４号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）
- １７．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第２条第１項第１４号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- １８．外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

ハ 投資対象とする金融商品

委託会社は、信託金を上記ロに掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第２条第２項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

（3）投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- （イ）転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の15%以内とします。
- （ロ）同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- （ハ）同一発行者が発行する証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。ただし、国債証券、米国財務省の発行する財務省証券およびその他の政府機関または政府関係公社の発行する証券はこの限りではありません。
- （ニ）私募により発行された有価証券への投資は、信託財産の純資産総額の15%以内とします。
- （ホ）外貨建資産への投資には制限を設けません。

ロ 法令に基づく投資制限

ベビーファンドにつき上述した法令に基づく制限は、当マザーファンドについても課されます。

3【投資リスク】

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、主に海外の債券を投資対象としています（マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。）。当ファンドの基準価額は、組み入れた債券の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた債券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、当ファンドは金融機関の預金とは異なり、元金が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。また、当ファンドは、預金や保険契約と異なり、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入しておりません。

当ファンドが有するリスク等（当ファンドが主要投資対象とするマザーファンドへの投資を通じて間接的に受ける実質的なリスク等を含みます。）のうち主要なものは、以下の通りです。

（イ）債券市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落（金利が上昇）した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

（ロ）為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほかに、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

（ハ）信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。有価証券等の格付けが低い場合は、格付けの高い場合に比べてこうしたリスクがより高いものになると想定されます。

（ニ）カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

（ホ）市場流動性リスク

大口の解約請求があった場合、解約資金を手当てするために保有資産を大量に売却しなければならないことがあります。その際、市場動向や取引量等の状況によっては、取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされたりすることがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

（ヘ）ファミリーファンド方式にかかる留意点

当ファンドは「ファミリーファンド方式」により運用するため、当ファンドと同じマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・一部解約により資金の流出入が生じた場合、その結果として、当該マザーファンドにおいても組入有価証券の売買等が生じ、当ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。

ロ 投資リスクの管理体制

リスク管理の実効性を高め、また、コンプライアンスの徹底を図るために、運用部門から独立した組織（リスク管理部および法務コンプライアンス部）を設置し、ファンドの投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかるチェックを行っています。リスク管理部では、主に投資信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングを行います。また、法務コンプライアンス部では、主に法令・諸規則等の遵守状況についてのチェックを行います。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかるチェックの結果については、運用評価委員会、リスク管理委員会およびコンプライアンス委員会への報告が義務づけられています。

〔マザーファンド運用におけるルーミス・セイレス社のリスク管理体制〕

ルーミス・セイレス社では、ファンダメンタルズ分析に力を入れることで信用リスクの最小化を図っています。同社リサーチ部門では70カ国、1,100以上の社債、政府債・政府機関債、モーゲージ証券・資産担保付証券・バンクローン等の発行体をカバーしています。同社独自の信用格付システムは、米国で最も古く開発されたものの1つで、S & P、ムーディーズといった格付機関の格付けに影響する各種要因の変化に注意を払っています。

金利リスクについては、月1回の同社の債券運用方針決定会議においてデュレーションや相対価値分析に基づいてストラテジーを策定しています。また、金利全体との相関関係が高くない債券を組み入れることにより、金利リスクを部分的に和らげるようにしています。さらに、期限前償還の対策に力を入れることにより、再投資リスクの最小化を行っています。

具体的には、期限前償還となった場合には大幅なキャピタルゲインが得られるほど割安に放置されている銘柄を発掘する、または契約上期限前償還への対抗措置が組み込まれている銘柄に投資するなどの方法により、再投資リスクを抑制しています。

また、アカウントリスクについては、コンプライアンス・スペシャリストのチームによって最小化を図っています。顧客との綿密な連絡を行い、長期の目的とリスクの許容範囲にあった運用上の制約について意見を合致させています。それを受けて、その目的とガイドラインに沿ったポートフォリオを構築しています。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

原則として、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に、2.1%（税抜き2.0%）を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める申込手数料率を乗じて得た額となります。

※累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は無手数料となります。

※申込手数料に関する詳細は、お申込みの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号※	インターネット・ ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	http://www.smam-jp.com

※お問い合わせは、原則として営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。

（２）【換金（解約）手数料】

解約手数料はありません。

（３）【信託報酬等】

純資産総額に年1.5435%（税抜き1.47%）の率を乗じて得た金額が信託報酬として計算され、信託財産の費用として計上されます。

信託報酬は、各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。

信託報酬の実質的配分は以下の通りです。

委託会社	販売会社	受託会社
年0.9450% (0.90%)	年0.5250% (0.50%)	年0.0735% (0.07%)

※（ ）内は税抜き。

※委託会社の報酬には、マザーファンドの投資顧問報酬（年0.6%）が含まれます。

（４）【その他の手数料等】

イ 信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、原則として、計算期間を通じて毎日、純資産総額に年0.0042%（税抜き0.004%）の率を乗じて得た金額（ただし、年630,000円（税抜き600,000円）を上限とします。）が信託財産の費用として計上され、各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。監査費用は、将来、監査法人との契約等により変更となることがあります。

ロ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息は、信託財産中から支弁します。

ハ 有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用、および外国における資産の保管等に要する費

用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）等は、信託財産中から支弁するものとします。

※ 上記ロ、ハにかかる費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、実務上、その発生もしくは請求のつど、信託財産の費用として認識され、その時点の信託財産で負担することとなります。したがって、あらかじめ、その金額、上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。

※ 上記（１）～（４）にかかる手数料等の合計額、その上限額、計算方法等は、手数料等に保有期間に応じて異なるものが含まれていたり、発生時・請求時に初めて具体的金額を認識するものがあつたりすることから、あらかじめ具体的に記載することはできません。

（５）【課税上の取扱い】

イ 個別元本について

- （イ）追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- （ロ）受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本の算出が行われることがあります。
- （ハ）受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「特別分配金」については、下記の（収益分配金の課税について）を参照。）

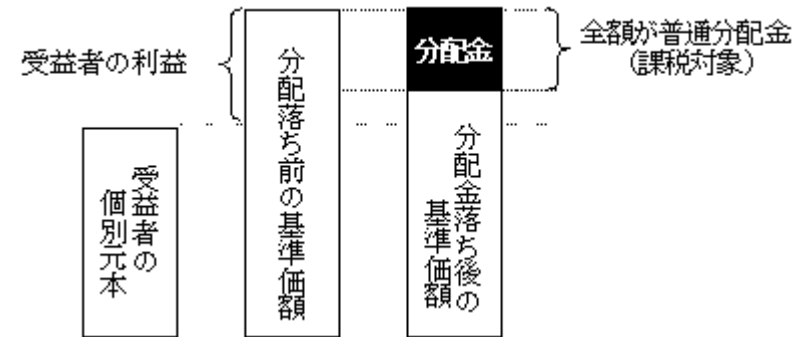
ロ 一部解約時および償還時の課税について

個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者については、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

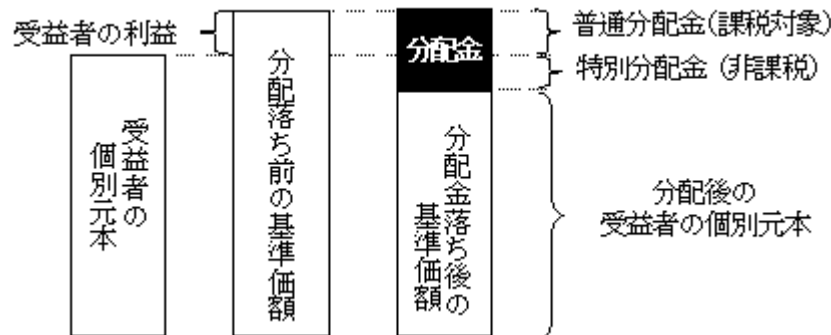
ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「特別分配金」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

- ①収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



②収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



※上記①、②の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

ニ 個人、法人別の課税の取扱いについて

（イ）個人の受益者に対する課税

i. 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、平成23年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）、平成24年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

ii. 一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、平成23年12月31日までは10%（所得税7%および地方税

3%)、平成24年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

なお、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、上場株式等にかかる譲渡益との通算が可能です。

（ロ）法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、平成23年12月31日までは7%（所得税のみ）、平成24年1月1日以降は15%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

当ファンドは、受取配当にかかる益金不算入制度、配当控除の適用はありません。

※当ファンドの外貨建資産割合および非株式割合

外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

非株式割合に関する制限はありません（約款規定なし）。

※上記「（5）課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、平成22年7月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

※課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

5【運用状況】**（１）【投資状況】**

平成22年 7 月30日現在

資産の種類	国／地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
U S ボンドマザーファンド受益証券	日本	1,450,848,053	92.90
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		110,896,474	7.10
合計(純資産総額)		1,561,744,527	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。以下同じ。

（２）【投資資産】**①【投資有価証券の主要銘柄】**

イ 主要投資銘柄

平成22年 7 月30日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量（口）	帳簿価額 単価／金額 (円)	評価額 単価／金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	U S ボンドマザーファンド	880,315,547	1.6748 1,474,352,478	1.6481 1,450,848,053	92.90

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別の投資比率

平成22年 7 月30日現在

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	92.90
合計	92.90

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】**①【純資産の推移】**

年月日	純資産総額 (円)	1万口当たりの 純資産額 (円)
特定２期（平成12年12月20日）（分配落）	227,782,354	10,622
特定２期（平成12年12月20日）（分配付）	233,687,507	10,872
特定３期（平成13年６月20日）（分配落）	263,315,938	11,707
特定３期（平成13年６月20日）（分配付）	269,907,576	12,007
特定４期（平成13年12月20日）（分配落）	598,429,197	11,863
特定４期（平成13年12月20日）（分配付）	620,471,712	12,363
特定５期（平成14年６月20日）（分配落）	1,156,763,351	11,030
特定５期（平成14年６月20日）（分配付）	1,207,707,974	11,630
特定６期（平成14年12月20日）（分配落）	1,482,419,561	10,599
特定６期（平成14年12月20日）（分配付）	1,535,580,959	10,999
特定７期（平成15年６月20日）（分配落）	2,456,500,003	11,260
特定７期（平成15年６月20日）（分配付）	2,534,378,001	11,660
特定８期（平成15年12月22日）（分配落）	3,889,547,557	10,073
特定８期（平成15年12月22日）（分配付）	4,030,461,017	10,473
特定９期（平成16年６月21日）（分配落）	4,807,210,481	9,622
特定９期（平成16年６月21日）（分配付）	4,995,218,962	10,022
特定10期（平成16年12月20日）（分配落）	6,574,479,681	9,276
特定10期（平成16年12月20日）（分配付）	6,825,034,091	9,676
特定11期（平成17年６月20日）（分配落）	7,963,358,477	9,417
特定11期（平成17年６月20日）（分配付）	8,220,857,259	9,717
特定12期（平成17年12月20日）（分配落）	6,762,051,844	9,691
特定12期（平成17年12月20日）（分配付）	6,981,798,365	9,991
特定13期（平成18年６月20日）（分配落）	5,622,781,646	9,226
特定13期（平成18年６月20日）（分配付）	5,810,426,962	9,526
特定14期（平成18年12月20日）（分配落）	5,189,440,589	9,689
特定14期（平成18年12月20日）（分配付）	5,353,361,020	9,989
特定15期（平成19年６月20日）（分配落）	4,384,735,955	9,787
特定15期（平成19年６月20日）（分配付）	4,525,002,751	10,087

特定16期（平成19年12月20日）（分配落）	3,624,328,485	9,036
特定16期（平成19年12月20日）（分配付）	3,746,521,480	9,336
特定17期（平成20年6月20日）（分配落）	2,569,059,868	8,225
特定17期（平成20年6月20日）（分配付）	2,671,254,709	8,525
特定18期（平成20年12月22日）（分配落）	1,678,783,354	5,791
特定18期（平成20年12月22日）（分配付）	1,766,763,169	6,091
特定19期（平成21年6月22日）（分配落）	1,843,486,523	6,552
特定19期（平成21年6月22日）（分配付）	1,928,607,844	6,852
特定20期（平成21年12月21日）（分配落）	1,696,812,931	6,658
特定20期（平成21年12月21日）（分配付）	1,776,190,919	6,958
特定21期（平成22年6月21日）（分配落）	1,596,697,610	6,536
特定21期（平成22年6月21日）（分配付）	1,670,322,606	6,836

平成21年7月末日	1,894,299,166	6,791
平成21年8月末日	1,872,086,912	6,735
平成21年9月末日	1,804,902,995	6,591
平成21年10月末日	1,774,238,117	6,689
平成21年11月末日	1,674,738,820	6,511
平成21年12月末日	1,710,863,637	6,710
平成22年1月末日	1,644,513,114	6,615
平成22年2月末日	1,638,417,074	6,615
平成22年3月末日	1,664,301,955	6,749
平成22年4月末日	1,708,849,314	6,937
平成22年5月末日	1,643,606,335	6,698
平成22年6月末日	1,577,203,211	6,461
平成22年7月末日	1,561,744,527	6,429

（注1）純資産総額（分配付）および1万口当たりの純資産額（分配付）の欄は、各特定期間にかかる収益分配金の総額を含んでいます。

（注2）純資産総額（分配落）および1万口当たりの純資産額（分配落）の欄は、収益分配時に外国税額控除規定が適用された場合には当該控除額を含んでいます。

②【分配の推移】

計算期間	1万口当たり分配金（円）
特定2期（平成12年6月21日～平成12年12月20日）	250
特定3期（平成12年12月21日～平成13年6月20日）	300
特定4期（平成13年6月21日～平成13年12月20日）	500
特定5期（平成13年12月21日～平成14年6月20日）	600
特定6期（平成14年6月21日～平成14年12月20日）	400
特定7期（平成14年12月21日～平成15年6月20日）	400
特定8期（平成15年6月21日～平成15年12月22日）	400
特定9期（平成15年12月23日～平成16年6月21日）	400
特定10期（平成16年6月22日～平成16年12月20日）	400
特定11期（平成16年12月21日～平成17年6月20日）	300
特定12期（平成17年6月21日～平成17年12月20日）	300
特定13期（平成17年12月21日～平成18年6月20日）	300

特定14期（平成18年 6 月21日～平成18年12月20日）	300
特定15期（平成18年12月21日～平成19年 6 月20日）	300
特定16期（平成19年 6 月21日～平成19年12月20日）	300
特定17期（平成19年12月21日～平成20年 6 月20日）	300
特定18期（平成20年 6 月21日～平成20年12月22日）	300
特定19期（平成20年12月23日～平成21年 6 月22日）	300
特定20期（平成21年 6 月23日～平成21年12月21日）	300
特定21期（平成21年12月22日～平成22年 6 月21日）	300

③【収益率の推移】

計算期間	収益率（％）
特定２期	8.7
特定３期	13.0
特定４期	5.6
特定５期	△2.0
特定６期	△0.3
特定７期	10.0
特定８期	△7.0
特定９期	△0.5
特定10期	0.6
特定11期	4.8
特定12期	6.1
特定13期	△1.7
特定14期	8.3
特定15期	4.1
特定16期	△4.6
特定17期	△5.7
特定18期	△25.9
特定19期	18.3
特定20期	6.2
特定21期	2.7

（注１）収益率とは、特定期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

（注２）収益分配時に外国税額控除規定が適用された場合には、上記収益率は同期間における受益者の投資収益率と異なる場合があります。

（４）【設定及び解約の実績】

計算期間	設定口数（口）	解約口数（口）
特定２期	151,185,274	440,350,000
特定３期	263,811,861	253,339,020
特定４期	388,942,311	109,417,062
特定５期	700,304,329	156,004,000
特定６期	427,561,718	77,693,348
特定７期	1,131,674,296	348,759,454
特定８期	1,984,161,038	304,478,486
特定９期	1,505,759,990	370,805,103
特定10期	2,518,083,862	426,844,021
特定11期	2,204,668,716	835,357,125
特定12期	675,562,583	2,154,420,384
特定13期	383,061,572	1,266,105,979
特定14期	665,668,687	1,404,405,961
特定15期	543,493,857	1,419,255,222
特定16期	260,685,354	730,013,370
特定17期	167,555,775	1,054,879,203
特定18期	61,284,451	285,929,183
特定19期	59,754,262	145,227,645
特定20期	43,791,384	308,900,054
特定21期	62,196,730	167,728,694

（注）本邦外における設定および解約の実績はありません。

〔参考情報：USボンドマザーファンドの投資状況・投資資産〕

（１）投資状況

平成22年 7 月30日現在

資産の種類	国／地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
新株予約権付社債券等	アメリカ	2,415,678	0.15
国債証券	アメリカ	506,041,205	32.20
社債券	日本	5,103,000	0.32
	アメリカ	857,660,685	54.58
	カナダ	52,780,058	3.36
	イタリア	2,399,128	0.15
	イギリス	16,992,690	1.08
	オランダ	16,062,904	1.02
	ルクセンブルク	29,848,948	1.90
	ケイマン諸島	21,190,106	1.35
	リベリア	6,092,842	0.39
	小 計	1,008,130,361	64.16
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		54,738,584	3.48
合計(純資産総額)		1,571,325,828	100.00

（２）投資資産

① 投資有価証券の主要銘柄

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

平成22年 7 月30日現在

国／ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価／金額 (円)	評価額 単価／金額 (円)	利率／ 償還期限	投資 比率 (%)
アメリカ	国債証券	US T 11.25% 15/02/15	2,625,000	12,280.24 322,356,356	12,377.77 324,916,716	11.25 2015/2/15	20.68
アメリカ	国債証券	US T 0.875% 11/05/31	535,000	8,711.49 46,606,498	8,711.99 46,609,174	0.875 2011/5/31	2.97
カナダ	社債券	METHANEX CORP 6% 150815	455,000	8,392.95 38,187,962	8,490.86 38,633,454	6 2015/8/15	2.46

アメリカ	社債券	EMBARQ 7.995% 36/06/01	385,000	8,596.25 33,095,573	8,798.03 33,872,448	7.995 2036/6/1	2.16
アメリカ	国債証券	US T 2.625% 14/07/31	345,000	8,978.19 30,974,760	9,115.69 31,449,137	2.625 2014/7/31	2.00
アメリカ	社債券	VALERO ENER6.625% 370615	330,000	8,173.12 26,971,303	9,026.14 29,786,282	6.625 2037/6/15	1.90
アメリカ	社債券	COMCAST CO 6.95% 370815	280,000	9,800.22 27,440,643	10,102.90 28,288,143	6.95 2037/8/15	1.80
アメリカ	国債証券	US T 0.875% 10/12/31	305,000	8,698.59 26,530,727	8,693.70 26,515,806	0.875 2010/12/31	1.69
アメリカ	国債証券	US T 4.375% 10/12/15	300,000	8,844.07 26,532,231	8,804.79 26,414,374	4.375 2010/12/15	1.68
アメリカ	社債券	GMAC LLC 6.00% 11/12/15	298,000	8,610.54 25,659,412	8,785.98 26,182,241	6 2011/12/15	1.67
アメリカ	社債券	REYNOLDS 7.25% 37/06/15	270,000	8,798.86 23,756,927	8,945.87 24,153,874	7.25 2037/6/15	1.54
アメリカ	社債券	AGILENT TECH 6.5% 171101	245,000	9,462.75 23,183,758	9,822.13 24,064,240	6.5 2017/11/1	1.53
アメリカ	社債券	HCA INC 6.375% 15/01/15	260,000	8,149.80 21,189,480	8,550.78 22,232,047	6.375 2015/1/15	1.41
アメリカ	国債証券	US T 3.125% 17/01/31	235,000	8,916.55 20,953,899	9,103.50 21,393,225	3.125 2017/1/31	1.36
アメリカ	社債券	MERRILL LYNCH6.05 160516	220,000	8,784.75 19,326,463	9,084.33 19,985,527	6.05 2016/5/16	1.27
アメリカ	社債券	CITIGROUP 5% 14/09/15	220,000	8,638.05 19,003,712	8,844.58 19,458,093	5 2014/9/15	1.24
アメリカ	社債券	GEORGIA PAC 7.75% 291115	215,000	8,735.02 18,780,303	9,027.63 19,409,420	7.75 2029/11/15	1.24
アメリカ	社債券	CUMMINS 7.125% 28/03/01	185,000	9,430.10 17,445,698	9,515.74 17,604,121	7.125 2028/3/1	1.12
アメリカ	社債券	GEN ELEC 6.15% 37/08/07	195,000	8,528.85 16,631,262	8,836.91 17,231,983	6.15 2037/8/7	1.10
イギリス	社債券	ROYALBK SCT 4.875%150316	190,000	8,522.94 16,193,601	8,943.52 16,992,690	4.875 2015/3/16	1.08
アメリカ	社債券	QWEST CAP 7.75% 31/2/15	195,000	8,149.80 15,892,110	8,409.90 16,399,305	7.75 2031/2/15	1.04
オランダ	社債券	SHELL INTL 6.375% 381215	155,000	10,013.57 15,521,037	10,363.16 16,062,904	6.375 2038/12/15	1.02
アメリカ	社債券	SPRINT CAP 6.875% 281115	210,000	7,293.63 15,316,638	7,586.25 15,931,125	6.875 2028/11/15	1.01

アメリカ	社債券	WELLPOINT 7% 19/02/15	140,000	10,116.14 14,162,606	10,310.12 14,434,169	7 2019/2/15	0.92
アメリカ	社債券	SLM CORP 5.625% 33/08/01	240,000	6,244.46 14,986,712	5,861.11 14,066,686	5.625 2033/8/1	0.90
ケイマン諸島	社債券	PETROBRAS6.875% 40/01/20	145,000	8,864.16 12,853,038	9,385.68 13,609,239	6.875 2040/1/20	0.87
アメリカ	社債券	US STEEL 6.65% 37/06/01	175,000	7,477.87 13,086,281	7,542.90 13,200,075	6.65 2037/6/1	0.84
アメリカ	社債券	PETROBRAS5.875% 18/03/01	140,000	9,093.56 12,730,989	9,344.16 13,081,826	5.875 2018/3/1	0.83
アメリカ	社債券	MERRILL LYNCH 6.4%170828	140,000	8,909.50 12,473,300	9,336.67 13,071,339	6.4 2017/8/28	0.83
アメリカ	社債券	APH CORP 4.75% 14/11/15	135,000	9,116.62 12,307,445	9,233.93 12,465,807	4.75 2014/11/15	0.79

ロ 種類別の投資比率

平成22年 7 月30日現在

種類	投資比率（%）
新株予約権付社債券等	0.15
国債証券	32.20
社債券	64.16
合計	96.52

② 投資不動産物件

該当事項はありません。

③ その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

イ 申込方法

（イ）ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社取引口座を開設の上、当ファンドの取得申込みを行っていただきます。

当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」の2つの申込方法がありますが、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。お申込みの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

（ロ）原則として午後3時までに取得申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。

なお、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受け付けを中止させていただく場合、既に受け付けた取得申込みを取り消させていただく場合があります。

（ハ）当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

ファンドのお買付けに関しましては、クーリングオフ制度の適用はありません。

（ニ）申込不可日

上記にかかわらず、取得申込日がニューヨーク証券取引所あるいはニューヨークの銀行の休業日の場合には、当ファンドの取得申込みはできません（また、該当日には、換金請求のお申込みもできません。）。

ロ 申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

ハ 申込手数料

原則として、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に、2.1%（税抜き2.0%）を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める申込手数料率を乗じて得た額となります。

※累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は無手数料となります。

※申込手数料に関する詳細は、お申込みの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

ニ 申込単位

お申込単位の詳細は、取扱いの販売会社または委託会社にお問い合わせください。

ホ 照会先

申込手数料、申込単位の詳細についての委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号 [※]	インターネット・ ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	http://www.smam-jp.com

※お問い合わせは、原則として営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。

ヘ 申込取扱場所・払込取扱場所

販売会社において申込み・払込みを取り扱います。

ト 払込期日

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）に申込手数料および当該手数料にかかる消費税等相当額を加算した額を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

2【換金（解約）手続等】

イ 信託契約の一部解約

受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約請求（一部解約の実行請求）により換金することができます。お買付けの販売会社にお申し出ください。

ただし、ニューヨーク証券取引所あるいはニューヨークの銀行の休業日の場合には、解約請求の受付は行いません。

解約請求のお申込みに関しては、原則として午後3時までに解約請求のお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるファンドの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

一部解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。

一部解約価額は、委託会社の営業日において日々算出されますので、委託会社（電話：0120-88-2976）にお問い合わせいただければ、いつでもお知らせします。

委託会社は、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止すること、および既に受け付けた一部解約の実行の請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

ロ 受益権の買取請求

受益者は、自己に帰属する受益権につき、お買付けの販売会社に買い取るよう請求することができます（ただし、販売会社によっては、買取請求の受付を行わない場合があります。お買付けの販売会社にご確認ください。）。

ただし、ニューヨーク証券取引所あるいはニューヨークの銀行の休業日の場合には、買取請求の受付は行いません。

買取価額は、買取請求受付日の翌営業日の基準価額から当該買取りに関して課税対象者にかかる源泉徴収税額相当額を差し引いた額となります。

実際の買取価額は、お買付けの販売会社にお問い合わせください。

取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、買取請求の受付を中止することおよび既に受け付けた買取請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の買取請求を撤回できます。受益者がその買取請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に買取請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

イ 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。なお、外貨建資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算するものとします。

ロ 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、「USボン」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号※	インターネット・ホームページ・アドレス
三井住友アセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	http://www.smam-jp.com

※お問い合わせは、原則として営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。

(2)【保管】

ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

(3)【信託期間】

平成12年1月28日から下記「（5）その他 イ 信託の終了」に記載された各事由が生じた場合における信託終了の日までとなります。

(4)【計算期間】

毎年3月21日から6月20日まで、6月21日から9月20日まで、9月21日から12月20日まで、および12月21日から翌年3月20日までとすることを原則としますが、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。なお、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

(5)【その他】

イ 信託の終了

（イ）信託契約の解約

- 委託会社は、当ファンドの信託契約を解約することが受益者にとって有利であると認めるとき、受益権の口数が10億口を下回ることとなったとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- 委託会社は、上記aの事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- 上記bの公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- 上記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるとときは、信託契約の解約をしません。
- 委託会社は、当ファンドの信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- 上記c～eまでの取扱いは、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であつ

て、上記cの一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(ロ) 信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁より当ファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い信託契約を解約し、信託を終了させます。

(ハ) 委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が、監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が当ファンドに関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、当ファンドは、その委託会社と受託会社との間において存続します。

(ニ) 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- a. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。
- b. 上記により受託会社が辞任し、または解任された場合は、委託会社は新受託会社を選任します。
- c. 委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。

ロ 収益分配金、償還金の支払い

(イ) 収益分配金

- a. 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わないことがあります。
- b. 分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払われます。
ただし、分配金自動再投資コースにかかる収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づいて、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(ロ) 償還金

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払われます。

ハ 信託約款の変更

- (イ) 委託会社は、当ファンドの信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、監督官庁より変更の命令を受けたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨および内容を監督官庁に届け出ます。
- (ロ) 委託会社は、上記（イ）の変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- (ハ) 上記（ロ）の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- (ニ) 上記（ハ）の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、（イ）の信託約款の変更をしません。
- (ホ) 委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

ニ 反対者の買取請求権

当ファンドの信託契約の解約または重大な信託約款の変更が行われる場合において、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間内に委託会社に異議を述べた受益者は、自己に帰属する受益権を、受託会社に信託財産をもって買い取るよう請求をすることができます。

ホ 販売会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問わず、ファンドの募集・販売の取扱い、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を規定するもの）は、期間満了の3ヵ月前に当事者のいずれからでも、何らの意思表示もない場合は、自動的に1年間更新されます。販売契約の内容は、必要に応じて、委託会社と販売会社との合意により変更されることがあります。

ヘ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社の事業の全部または一部の譲渡、もしくは分割承継により、当ファンドに関する事業が譲渡・承継されることがあります。

ト 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

チ 運用にかかる報告書の開示方法

委託会社は6ヵ月（原則として6月、12月の各決算時までの期間）毎に、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に従い、期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した「運用報告書」を作成します。

運用報告書は、原則として、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。

4【受益者の権利等】

委託会社の指図に基づく行為によりファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドの受益権は、信託の日時を異にすることにより差異が生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次の通りです。

イ 分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払われます。

ただし、分配金自動再投資コースをお申込みの場合の収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づき、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、受益者が、その支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ロ 償還金請求権

受益者は、持分に応じて償還金を請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払われます。

償還金は、受益者がその支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ハ 一部解約実行請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。詳細は、前記「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」の記載をご参照ください。

ニ 買取請求権

受益者は、販売会社に、自己に帰属する受益権の買取りを請求することができます。詳細は、前記「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」の記載をご参照ください。

ホ 信託約款変更等に対する異議申立権および受益権の買取請求権

委託会社が、当ファンドの解約（監督官庁の命令による解約等の場合を除きます。）または重大な信託約款の変更を行おうとする場合において、当該解約または信託約款変更に関する異議のある受益者は、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間中に異議を申し立てることができます。異議を申し立てた受益者の受益権の口数が、受益権の総口数の過半数となる場合は、当該解約または信託約款変更は行われません。

当該解約または信託約款変更が行われる場合において、前述の異議を申し立てた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨の請求ができます。

ヘ 帳簿閲覧・謄写請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（以下「財務諸表等規則」といいます）（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（以下「投資信託財産計算規則」といいます）（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
また、特定20期（平成21年6月23日から平成21年12月21日まで）については、改正前の財務諸表等規則および投資信託財産計算規則に基づき、特定21期（平成21年12月22日から平成22年6月21日まで）については、改正後の財務諸表等規則および投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、特定20期（平成21年6月23日から平成21年12月21日まで）の財務諸表については、あずさ監査法人により監査を受け、特定21期（平成21年12月22日から平成22年6月21日まで）の財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。
なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

1 【財務諸表】

【三井住友・USボンドオープン（為替ノーヘッジ型）】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	特定20期 (平成21年12月21日現在)	特定21期 (平成22年6月21日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	159,617,441	166,949,939
親投資信託受益証券	1,584,042,433	1,474,352,478
未収利息	218	228
流動資産合計	1,743,660,092	1,641,302,645
資産合計	1,743,660,092	1,641,302,645
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	38,226,538	36,643,559
未払解約金	2,131,960	1,608,480
未払受託者報酬	308,150	301,705
未払委託者報酬	6,162,934	6,034,081
その他未払費用	17,579	17,210
流動負債合計	46,847,161	44,605,035
負債合計	46,847,161	44,605,035
純資産の部		
元本等		
元本	2,548,435,904	2,442,903,940
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△851,622,973	△846,206,330
元本等合計	1,696,812,931	1,596,697,610
純資産合計	1,696,812,931	1,596,697,610
負債純資産合計	1,743,660,092	1,641,302,645

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	特定20期 自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日
営業収益		
受取利息	37,168	24,428
有価証券売買等損益	122,185,577	57,310,045
営業収益合計	122,222,745	57,334,473
営業費用		
受託者報酬	662,158	612,063
委託者報酬	13,243,110	12,241,164
その他費用	37,776	34,913
営業費用合計	13,943,044	12,888,140
営業利益	108,279,701	44,446,333
経常利益	108,279,701	44,446,333
当期純利益	108,279,701	44,446,333
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	691,298	1,336,960
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△970,058,051	△851,622,973
剰余金増加額又は欠損金減少額	105,079,635	56,374,703
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	105,079,635	56,374,703
剰余金減少額又は欠損金増加額	14,854,972	20,442,437
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	14,854,972	20,442,437
分配金	79,377,988	73,624,996
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△851,622,973	△846,206,330

（３）【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項 目	特定20期 自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券（売買目的有価証券） 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	親投資信託受益証券（売買目的有価証券） 同 左
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当特定期間は前期末および当期末が休日のため、平成21年 6 月23日から平成21年12月21日までとなっております。	計算期間の取扱い 当特定期間は前期末および当期末が休日のため、平成21年12月22日から平成22年 6 月21日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	特定20期 (平成21年12月21日現在)	特定21期 (平成22年 6 月21日現在)
1. 受益権総数	当該特定期間の末日における受益権の総数 2,548,435,904口	当該特定期間の末日における受益権の総数 2,442,903,940口
2. 元本の欠損	「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の 6 第10号に規定する額 851,622,973円	「投資信託財産の計算に関する規則」第55条の 6 第10号に規定する額 846,206,330円
3. 1 単位当たり純資産額	0.6658円 (1 万口=6,658円)	0.6536円 (1 万口=6,536円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	特定20期 自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日
1. 委託者報酬	委託者報酬に含まれる、信託財産の運用の指図にかかる権限の全部または一部を委託するために要する費用 5,074,543円	委託者報酬に含まれる、信託財産の運用の指図にかかる権限の全部または一部を委託するために要する費用 4,684,154円
2. 分配金の計算過程	(自 平成21年 6 月23日 至 平成21年 9 月24日) 第39計算期間末における費用控除後の配当等収益(27,009,872円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(1,415,450円)、および分配準備積立金(152,737,673円)より、分配対象収益は181,162,995円(1 万口当たり660.35円)であり、うち41,151,450円(1 万口当たり150円)を分配金額としております。 (自 平成21年 9 月25日 至 平成21年12月21日) 第40計算期間末における費用控除後の配当等収益(22,869,149円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(1,127,892円)、および分配準備積立金(129,005,804円)より、分配対象収益は153,002,845円(1 万口当たり600.37円)であり、うち38,226,538円(1 万口当たり150円)を分配金額としております。	(自 平成21年12月22日 至 平成22年 3 月23日) 第41計算期間末における費用控除後の配当等収益(18,803,010円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(1,134,719円)、および分配準備積立金(109,974,605円)より、分配対象収益は129,912,334円(1 万口当たり526.93円)であり、うち36,981,437円(1 万口当たり150円)を分配金額としております。 (自 平成22年 3 月24日 至 平成22年 6 月21日) 第42計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,670,696円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(1,777,009円)、および分配準備積立金(90,449,077円)より、分配対象収益は111,896,782円(1 万口当たり458.04円)であり、うち36,643,559円(1 万口当たり150円)を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

（追加情報）

当特定期間より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）および「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

I. 金融商品の状況に関する事項

項 目	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年6月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	（1）金融商品の内容 1）有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当特定期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。 なお、当特定期間末の保有については、附属明細表に記載しております。 2）デリバティブ取引 該当事項はありません。 3）コールローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 （2）金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。

3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についてのチェックを行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかるチェックの結果については、運用評価、リスク管理ならびにコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。 また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。リスクを管理する部署では、各種リスクごとに定められた頻度で、測定項目が上下限值（リミットあるいは注意レベル）内に収まっているかどうかのモニタリングを行っております。上下限値を越えていることが発見された場合は、原則として速やかに修正を行うよう、リスク管理を行う部署から関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われます。また、是正勧告あるいは報告を受けた関連運用グループでは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、リスク管理を行う部署は、上下限値に抵触した事実ならびにその後の対処結果、あるいは関連運用グループの対処方針の決定に関し、必要に応じて、リスク管理を行う部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員、およびリスク管理委員会へ報告する体制となっております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

II. 金融商品の時価等に関する事項

項 目	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年 6月21日
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） 該当事項はありません。 (3) コールローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

特定20期（自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日）

種類	貸借対照表計上額	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	1,584,042,433円	53,664,758円
合計	1,584,042,433円	53,664,758円

特定21期（自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	25,000,961円
合計	25,000,961円

（デリバティブ取引に関する注記）

特定20期（自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日）

該当事項はありません。

特定21期（平成22年 6 月21日現在）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

特定20期（自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日）

該当事項はありません。

特定21期（自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日）

該当事項はありません。

（その他の注記）

項 目	特定20期 （平成21年12月21日現在）	特定21期 （平成22年 6 月21日現在）
期首元本額	2,813,544,574円	2,548,435,904円
期中追加設定元本額	43,791,384円	62,196,730円
期中一部解約元本額	308,900,054円	167,728,694円

（４）【附属明細表】

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

種 別	銘柄名	元本額	評価額	
			単価	金額
親投資信託 受益証券	U S ボンドマザーファンド	880,315,547円	1.6748円	1,474,352,478円

（参考情報）

当ファンドは、「ＵＳボンドマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

「ＵＳボンドマザーファンド」の状況

（１）貸借対照表

期 別	特定20期 (平成21年12月21日現在)	特定21期 (平成22年 6 月21日現在)
科 目	金額(円)	金額(円)
資産の部		
I 流動資産		
預金	27,298,419	69,983,865
コール・ローン	15,928,198	13,798,006
国債証券	460,450,291	486,362,227
特殊債券	13,370,631	—
社債券	1,181,452,545	1,008,557,324
未収利息	25,818,952	23,791,367
前払費用	134,176	421,364
流動資産合計	1,724,453,212	1,602,914,153
資産合計	1,724,453,212	1,602,914,153
負債の部		
I 流動負債		
流動負債合計	—	—
負債合計	—	—
純資産の部		
I 元本等		
1 元本		
元本	1,068,018,697	957,078,529
元本合計	1,068,018,697	957,078,529

2 剰余金		
期末剰余金	656,434,515	645,835,624
剰余金合計	656,434,515	645,835,624
元本等合計	1,724,453,212	1,602,914,153
純資産合計	1,724,453,212	1,602,914,153
負債・純資産合計	1,724,453,212	1,602,914,153

（注）「U S ボンドマザーファンド」は、毎年3月20日、6月20日、9月20日および12月20日（ただし、休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。上記の貸借対照表は平成21年12月21日ならびに平成22年6月21日現在における同マザーファンドの状況です。

（２）注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項 目	特定20期 自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、特殊債券および社債券（売買目的有価証券） 個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。	国債証券、特殊債券および社債券（売買目的有価証券） 同 左
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物売買相場の仲値によっております。	為替予約取引 同 左
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。	外貨建資産等の会計処理 同 左

（貸借対照表に関する注記）

項 目	特定20期 （平成21年12月21日現在）	特定21期 （平成22年 6 月21日現在）
1. 受益権総数	当該特定期間の末日における受益権の総数 1,068,018,697口	当該特定期間の末日における受益権の総数 957,078,529口
2. 1 単位当たり純資産額	1.6146円 （ 1 万口＝16,146円）	1.6748円 （ 1 万口＝16,748円）

（金融商品に関する注記）

（追加情報）

当特定期間より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）および「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

I. 金融商品の状況に関する事項

項 目	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年6月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	（1）金融商品の内容 1）有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当特定期間については、国債証券、特殊債券および社債券を組み入れております。 なお、当特定期間末の保有については、附属明細表に記載しております。 2）デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。当ファンドにおけるデリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクの回避を目的としております。 なお、当特定期間末における残高については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 3）コールローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 （2）金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。

3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についてのチェックを行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかるチェックの結果については、運用評価、リスク管理ならびにコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。 また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。リスクを管理する部署では、各種リスクごとに定められた頻度で、測定項目が上下限值（リミットあるいは注意レベル）内に収まっているかどうかのモニタリングを行っております。上下限値を越えていることが発見された場合は、原則として速やかに修正を行うよう、リスク管理を行う部署から関連する運用グループに是正勧告あるいは報告が行われます。また、是正勧告あるいは報告を受けた関連運用グループでは、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、リスク管理を行う部署は、上下限値に抵触した事実ならびにその後の対処結果、あるいは関連運用グループの対処方針の決定に関し、必要に応じて、リスク管理を行う部署の担当役員、当該関連運用グループの担当役員、およびリスク管理委員会へ報告する体制となっております。
-------------------	--

4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。
----------------------------	--

II. 金融商品の時価等に関する事項

項 目	特定21期 自 平成21年12月22日 至 平成22年6月21日
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（国債証券、特殊債券および社債券） 「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コールローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(デリバティブ取引に関する注記)

I. 取引の状況に関する事項

項 目	特定20期 自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日
1. 取引の内容	当ファンドの行うことのできるデリバティブ取引は、次の通りです。 ① a. わが国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引。 b. わが国の取引所等における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所等におけるこれらの取引と類似の取引。 ②異なった通貨、異なった受取金利、または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（「スワップ取引」）。 ③金利先渡し取引および為替先渡し取引。 ④外国為替の売買の予約取引。
2. 取引に対する取組方針	デリバティブ取引につきましては、信託約款等に従っており、その制限を遵守しております。
3. 取引の利用目的	信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため。なお、外貨建資産に対する為替ヘッジは行いません。
4. 取引に係るリスクの内容	デリバティブ取引に伴いファンドに影響を与える主なリスクとしてマーケットリスクがあげられます。マーケットリスクについては、ポジションや時価、予想損失額の把握が重要だと考えております。
5. 取引に係るリスクの管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、投資信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についてのチェックを行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかるチェックの結果については、運用評価、リスク管理ならびにコンプライアンスに関する委員会をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。
6. 取引の時価等に関する事項についての補足説明	該当事項はありません。

II. 取引の時価等に関する事項

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況

特定20期（平成21年12月21日現在）

特定20期末現在、デリバティブ取引は行っておりません。

特定21期（平成22年 6 月21日現在）

特定21期末現在、デリバティブ取引は行っておりません。

（関連当事者との取引に関する注記）

特定20期（自 平成21年 6 月23日 至 平成21年12月21日）

該当事項はありません。

特定21期（自 平成21年12月22日 至 平成22年 6 月21日）

該当事項はありません。

(その他の注記)

特定20期 （平成21年12月21日現在）	
本有価証券報告書における開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,242,486,259円
同期中における追加設定元本額	5,147,674円
同期中における一部解約元本額	179,615,236円
期末における元本の内訳	
三井住友・U S ボンドオープン（為替ヘッジ型）	86,944,478円
三井住友・U S ボンドオープン（為替ノーヘッジ型）	981,074,219円
合計	1,068,018,697円

特定21期 （平成22年6月21日現在）	
本有価証券報告書における開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,068,018,697円
同期中における追加設定元本額	－円
同期中における一部解約元本額	110,940,168円
期末における元本の内訳	
三井住友・U S ボンドオープン（為替ヘッジ型）	76,762,982円
三井住友・U S ボンドオープン（為替ノーヘッジ型）	880,315,547円
合計	957,078,529円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

種類	銘 柄	券面総額	評価額	備 考
国債証券	米ドル			
	US T0.875%10/12/31	180,000.00	180,590.62	
	US T0.875%11/05/31	185,000.00	185,809.37	
	US T11.25%15/02/15	2,625,000.00	3,718,066.40	
	US T2.375%10/08/31	95,000.00	95,408.20	
	US T2.625%14/07/31	345,000.00	357,263.67	
	US T3.125%17/01/31	235,000.00	241,682.81	
	US T3.125%19/05/15	135,000.00	134,894.53	
	US T3.625%19/08/15	115,000.00	119,042.96	
	US T4.375%10/12/15	300,000.00	306,023.43	
	US T4.625%40/02/15	30,000.00	32,418.75	
	米ドル 小計	4,245,000.00	5,371,200.74	
	(邦貨換算額)		(486,362,227)	(単位：円)
社債券	米ドル			
	AFLAC6.9%2039/12/17	95,000.00	96,080.34	
	AGILENT TECH6.5%171101	245,000.00	267,402.06	
	AK STEEL7.625%20/05/15	25,000.00	24,875.00	
	AMERICAN TO4.625150401	65,000.00	67,044.70	
	ANHEUSER BUS4.95140115	10,000.00	10,724.60	
	ANHEUSER BUS6.5420501	5,000.00	5,364.00	
	APH CORP4.75%14/11/15	135,000.00	141,954.39	
	ARCELORMITTAL7%391015	100,000.00	99,701.60	
	ARCELORMITTAL9.85%190601	55,000.00	67,423.73	
	BEAR STEARNS5.3%151030	130,000.00	139,266.14	
	CF INDUS6.875%18/05/01	15,000.00	15,300.00	
	CF INDUS7.125%20/05/01	20,000.00	20,500.00	
	CITIGROUP5%14/09/15	220,000.00	219,189.30	
	CITIGROUP8.125%390715	55,000.00	63,904.11	
	CITIZENS7.875%27/01/15	80,000.00	72,800.00	

	COLORADO INT5.95150315	5,000.00	5,403.40	
	COLUM/HCA7.58%25/09/15	20,000.00	17,800.00	
	COLUMBIA7.69%25/06/15	50,000.00	45,250.00	
	COLUMBIA HLTH7.5231215	5,000.00	4,475.00	
	COMCAST CO6.95%370815	280,000.00	316,501.08	
	COMCAST CORP5.65%350615	20,000.00	19,292.34	
	CORNING6.85%29/03/01	5,000.00	5,476.05	
	CORNING7.25%36/08/15	30,000.00	33,941.67	
	CUMMINS7.125%28/03/01	185,000.00	201,219.13	
	DR PEPPER6.82%2018/5/1	95,000.00	111,775.48	
	EL PASO CORP7.42370215	85,000.00	76,208.96	
	EMBARQ7.995%36/06/01	385,000.00	381,725.19	
	EQUIFAX7.0%37/07/01	65,000.00	69,755.92	
	EQUINIX8.125%180301	115,000.00	118,450.00	
	EXELON GEN5.2%19/10/01	50,000.00	51,857.85	
	FORD MOTOR CR7%13/10/01	110,000.00	112,458.94	
	FORD MOTOR CR8%16/12/15	100,000.00	102,764.40	
	GATX CORP4.75%15/05/15	75,000.00	77,531.47	
	GEN ELEC6.15%37/08/07	195,000.00	191,825.40	
	GEORGIA PA7.375%251201	80,000.00	78,400.00	
	GEORGIA PAC7.25%280601	65,000.00	63,862.50	
	GEORGIA PAC7.75%291115	215,000.00	216,612.50	
	GMAC6.75%14/12/01	44,000.00	42,432.14	
	GMAC6.875%12/08/28	68,000.00	67,874.81	
	GMAC7.25%11/03/02	20,000.00	20,226.72	
	GMAC LLC6.00%11/12/15	298,000.00	295,956.31	
	GOLDMAN5.125%15/01/15	30,000.00	30,919.83	
	GOLDMAN SACHS5.15%140115	45,000.00	46,871.28	
	GOLDMAN SACHS6.75%371001	105,000.00	100,763.46	
	HANESBRANDS 8%16/12/15	95,000.00	97,375.00	
	HCA INC6.375%15/01/15	260,000.00	244,400.00	

	HCA INC6.5%160215	40,000.00	37,600.00	
	HOSPIRA INC6.05%170330	80,000.00	88,843.76	
	JABIL CIRCUIT7.75%160715	20,000.00	20,700.00	
	JC PENNEY6.375%361015	28,000.00	26,880.00	
	KRAFT FOODS6.5%311101	20,000.00	21,507.90	
	KRAFT FOODS6.5%40/2/9	90,000.00	98,382.69	
	LEVEL3 COMM1206153.5%	30,000.00	27,300.00	※ 1
	LIFE TECH6%2020/03/01	120,000.00	127,644.36	
	LINCOLN NATL7%40/06/15	105,000.00	108,150.42	
	MCDONALD'S COR5%190201	75,000.00	82,971.52	
	MERRILL6.875%18/04/25	30,000.00	31,604.34	
	MERRILL LYNCH6.4%170828	140,000.00	143,867.36	
	MERRILL LYNCH6.05160516	220,000.00	222,911.92	
	METHANEX CORP6% 150815	455,000.00	440,460.93	
	MORGAN ST4.75%14/04/01	90,000.00	89,216.28	
	MOTOROLA6.625%37/11/15	15,000.00	14,382.12	
	MOTOROLA INC6.5%281115	25,000.00	23,857.10	
	NATL SE3.95%15/04/15	100,000.00	100,016.00	
	NEWMONT MIN5.875%350401	45,000.00	44,581.23	
	NEXTEL COM5.95%140315	80,000.00	75,000.00	
	NEXTEL COM6.875%131031	50,000.00	48,625.00	
	NEXTEL COM7.375%150801	125,000.00	119,375.00	
	NOMURA HLDS5%150304	55,000.00	57,228.10	
	OMNICARE INC7.75200601	35,000.00	35,612.50	
	ONEOK PARTN8.625190301	70,000.00	84,940.73	
	PENNEY (JC) CO INC	50,000.00	53,375.00	
	PETROBRAS5.875%18/03/01	140,000.00	146,839.56	
	PETROBRAS6.875%40/01/20	145,000.00	148,247.27	
	PFIZER INC7.239/03/15	80,000.00	101,374.16	
	PIONEER6.875%18/05/01	35,000.00	35,275.94	
	PIONEER NATURAL RESOURCE	15,000.00	14,223.76	

	QWEST CAP7.75%31/2/15	195,000.00	183,300.00	
	QWEST CAPI6.5%18/11/15	110,000.00	103,125.00	
	QWEST CORP7.25%35/10/15	90,000.00	84,600.00	
	REYNOLDS7.25%37/06/15	270,000.00	274,013.01	
	ROYAL CARIB11.875%150715	60,000.00	69,000.00	
	ROYALBK SCT4.875%150316	190,000.00	186,777.41	
	RPM INTL6.125%191015	80,000.00	83,568.16	
	SHELL INTL6.375%381215	155,000.00	179,020.04	
	SLM CORP5%13/10/01	85,000.00	80,759.94	
	SLM CORP5%18/06/15	50,000.00	39,489.40	
	SLM CORP5.05%14/11/14	80,000.00	70,015.68	
	SLM CORP5.375%13/01/15	5,000.00	4,824.64	
	SLM CORP5.375%14/05/15	30,000.00	27,300.72	
	SLM CORP5.625%33/08/01	240,000.00	172,857.12	
	SLM CORP8.45%18/06/15	115,000.00	107,739.13	
	SPRINT CAP6.875%281115	210,000.00	176,662.50	
	SUNGARD9.125%13/08/15	70,000.00	71,050.00	
	TELECOM ITA6%340930	30,000.00	25,432.62	
	TELECOM ITA6.375%331115	75,000.00	67,088.62	
	TELECOM ITA7.2%360718	90,000.00	87,190.56	
	TIME WARNER7.7320501	65,000.00	75,945.02	
	TIME WARNER8.25%19/4/1	65,000.00	78,814.84	
	TIME WARNER INC6.625%	10,000.00	10,731.76	
	TIMEWARNER C5.85170501	15,000.00	16,301.97	
	TIMKEN CO6%140915	60,000.00	65,241.00	
	TRANSALTA COR6.5400315	65,000.00	65,221.65	
	TRANSALTA CRP4.75%150115	90,000.00	93,957.66	
	TREEHOUSE F07.75180301	15,000.00	15,487.50	
	TWX6.5%36/11/15	40,000.00	42,338.56	
	TXU6.5%24/11/15	190,000.00	88,825.00	
	TXU6.55%34/11/15	10,000.00	4,625.00	

	TXU CORP5.55%14/11/15	70,000.00	50,095.64	
	UNITED TECH6.125%190201	100,000.00	116,855.40	
	US STEEL6.65%37/06/01	175,000.00	150,937.50	
	USG CORP6.3%16/11/15	20,000.00	17,200.00	
	USG CORP MULTI18/01/15	85,000.00	84,468.75	
	VALE OVER6.87536/11/21	80,000.00	83,049.52	
	VALERO ENER6.625%370615	330,000.00	311,087.70	
	VERIZON8.75%18/11/01	90,000.00	115,515.45	
	WELLPOINT7%19/02/15	140,000.00	163,351.86	
	WHIRLPOOL8%12/05/01	25,000.00	27,360.97	
	WHIRLPOOL8.6%14/05/01	20,000.00	23,455.96	
	WILLIS NORTH AME7190929	15,000.00	15,710.86	
	XEROX CORP6.4%16/03/15	86,000.00	95,800.30	
	米ドル 小計	11,154,000.00	11,138,126.17	
	(邦貨換算額)		(1,008,557,324)	(単位：円)
	合 計		1,494,919,551	単位：円
	(外貨建有価証券邦貨換算額合計)		(1,494,919,551)	(単位：円)

(注)

1. 合計金額欄の（ ）内は、外貨建有価証券にかかるもので、内書きであります。
2. 米ドル表示の債券については、131銘柄、信託財産純資産総額に対する比率93.2%、
合計に対する比率100.0%です。
3. ※ 1 は新株予約権付社債です。

2 【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

平成22年7月30日現在

I 資産総額	1,565,639,643 円
II 負債総額	3,895,116 円
III 純資産総額(I － II)	1,561,744,527 円
IV 発行済口数	2,429,163,938 口

V 1口当たり純資産額(Ⅲ／Ⅳ)	0.6429 円
（ 1万口当たり純資産額	6,429 円 ）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券は発行されません。

イ 名義書換

該当事項はありません。

ロ 受益者名簿

作成しません。

ハ 受益者に対する特典

ありません。

ニ 受益権の譲渡および譲渡制限等

（イ）受益権の譲渡

- a. 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- b. 上記aの申請のある場合には、上記aの振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記aの振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- c. 上記aの振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（ロ）受益権の譲渡制限および譲渡の対抗要件

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

ホ 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議の上、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

ヘ 償還金

償還金は、原則として、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に支払います。

ト 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

イ 資本金の額および株式数

	平成22年7月30日現在
資本金の額	2,000百万円
会社が発行する株式の総数	60,000株
発行済株式総数	17,640株

ロ 最近5年間における資本金の額の増減

該当ありません。

ハ 会社の機構

委託会社の取締役は7名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとし、

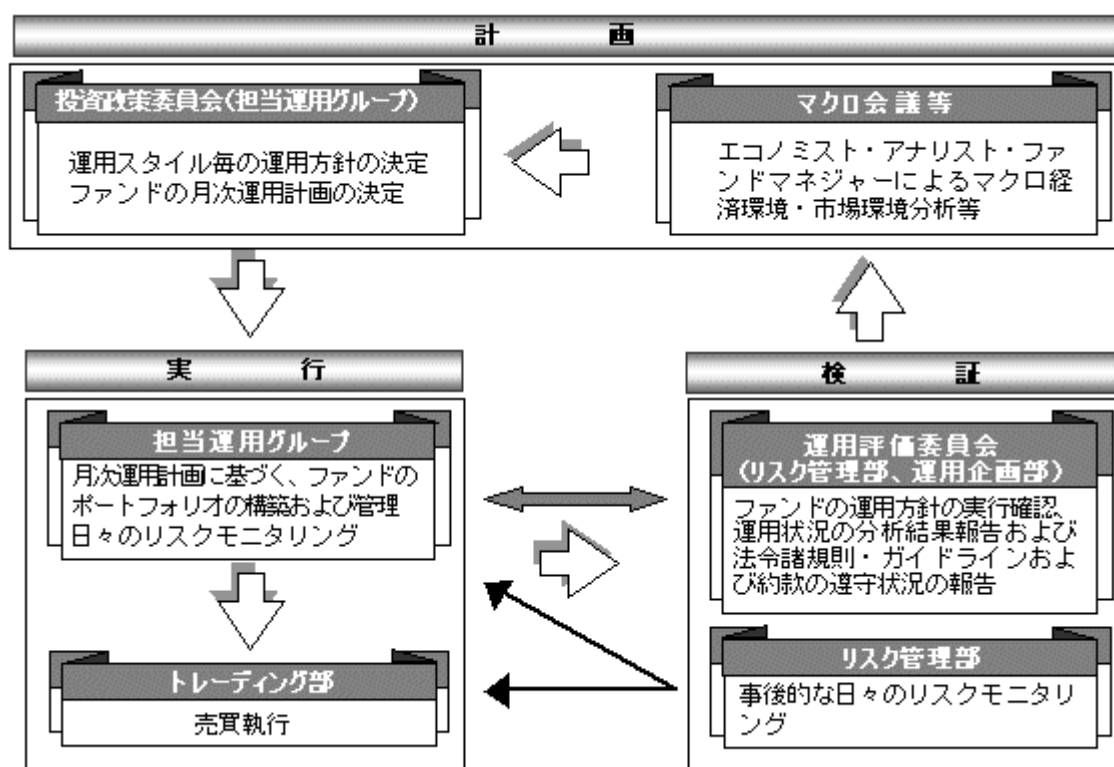
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役を若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定し、必要に応じて取締役会長1名のほか、取締役副社長、専務取締役、常務取締役を若干名選定することができます。

ニ 投資信託の運用の流れ



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。

平成22年7月30日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

（平成22年7月30日現在、単位：百万円）

		本 数	純資産総額
株式投資信託	単位型	66 (1)	154,704 (178)
	追加型	255 (119)	4,701,355 (2,873,553)
	計	321 (120)	4,856,058 (2,873,730)
公社債投資信託	単位型	0 (0)	0 (0)
	追加型	0 (0)	0 (0)
	計	0 (0)	0 (0)
合 計		321 (120)	4,856,058 (2,873,730)

※（ ）内は、私募投資信託分であり、内書き表記しております。

3【委託会社等の経理状況】

- 1 当社の財務諸表は、第24期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）については、改正前の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しており、第25期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）については、改正後の「財務諸表等規則」並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2 当社は、第24期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び第25期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、あずさ監査法人の監査を受けております。
なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

（１）【貸借対照表】

（単位：千円）

	第 24 期 (平成21年 3 月31日現在)	第 25 期 (平成22年 3 月31日現在)
(資 産 の 部)		
流動資産		
現金及び預金 ※ 2	15,883,303	15,484,883
有価証券	2,998,947	2,999,185
前払費用	323,949	248,594
未収入金	3,593	6,524
未収委託者報酬	2,158,082	3,405,895
未収運用受託報酬	635,902	456,672
未収投資助言報酬 ※ 2	406,959	426,716
未収収益	8,062	7,020
未収還付法人税等	1,068,737	-
未収還付消費税等	182,000	-
繰延税金資産	68,795	244,770
その他の流動資産	2,641	1,392
流動資産計	23,740,977	23,281,654
固定資産		
有形固定資産 ※ 1		
建物	169,629	173,574
器具備品	200,701	150,631
有形固定資産合計	370,331	324,206
無形固定資産 ※ 1		
電話加入権	161	150
商標権	8,104	6,160
無形固定資産合計	8,266	6,310
投資その他の資産		
投資有価証券	2,542,125	6,923,150
関係会社株式	236,178	236,178
長期差入保証金	783,231	681,764
長期前払費用	14,643	7,822
会員権	20,113	20,113
繰延税金資産	34,393	524,820
投資その他の資産合計	3,630,686	8,393,850
固定資産計	4,009,284	8,724,367
資産合計	27,750,261	32,006,022

（単位：千円）

	第 24 期 (平成21年 3 月31日現在)	第 25 期 (平成22年 3 月31日現在)
(負 債 の 部)		
流動負債		
預り金	44,497	46,362
未払金		
未払収益分配金	947	943
未払償還金	23,376	18,453
未払手数料 ※ 2	891,493	1,523,402
その他未払金	112,743	71,728
未払費用	612,126	869,497
未払消費税等	-	74,053
未払法人税等	-	1,264,485
賞与引当金	291,836	293,651
流動負債計	1,977,020	4,162,578
固定負債		
退職給付引当金	972,202	1,137,766
固定負債計	972,202	1,137,766
負債合計	2,949,223	5,300,344
(純 資 産 の 部)		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984
資本剰余金合計	8,628,984	8,628,984
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金	60,000	60,000
別途積立金	1,476,959	1,476,959
繰越利益剰余金	12,356,655	14,172,932
利益剰余金合計	14,177,860	15,994,137
株主資本計	24,806,844	26,623,121
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△ 5,805	82,556
評価・換算差額等計	△ 5,805	82,556
純資産合計	24,801,038	26,705,677
負債・純資産合計	27,750,261	32,006,022

（２）【損益計算書】

（単位：千円）

	第 24 期 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)	第 25 期 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)
営業収益		
委託者報酬	20,072,582	21,113,167
運用受託報酬	3,506,635	2,492,177
投資助言報酬	2,048,748	1,893,038
その他営業収益		
情報提供コンサルタント業務報酬	5,000	5,000
投資法人運用受託報酬	60,260	43,853
その他	2,749	12,348
営業収益計	25,695,976	25,559,586
営業費用		
支払手数料	9,326,200	9,706,627
広告宣伝費	529,276	420,508
公告費	1,227	2,339
調査費		
調査費	538,515	579,477
委託調査費	1,310,113	1,556,961
営業雑経費		
通信費	30,202	31,515
印刷費	302,661	278,539
協会費	23,322	19,271
諸会費	14,373	12,955
情報機器関連費	2,036,426	2,005,507
販売促進費	55,223	13,183
その他	55,485	66,833
営業費用計	14,223,029	14,693,722
一般管理費		
給料		
役員報酬	174,486	155,835
給料・手当	4,004,575	4,192,414
賞与	1,051,279	719,290
賞与引当金繰入額	291,836	293,651
交際費	23,229	19,087
寄付金	4,000	23
事務委託費	356,543	195,150
旅費交通費	258,981	197,842
租税公課	81,166	86,095
不動産賃借料	762,812	714,209
退職給付費用	262,634	197,352
固定資産減価償却費	119,811	97,916
諸経費	281,968	280,916
一般管理費計	7,673,326	7,149,786
営業利益	3,799,620	3,716,077

営業外収益		
受取配当金	-	1,710
有価証券利息	22,216	4,645
受取利息	※ 1 36,255	16,592
為替差益	11,209	-
時効成立分配金・償還金	7,832	3,492
原稿・講演料	3,910	3,255
還付加算金	-	37,708
雑収入	4,132	6,291
営業外収益計	85,555	73,696
営業外費用		
為替差損	-	5,113
時効成立後支払分配金・償還金	693	-
雑損失	82	-
営業外費用計	775	5,113
経常利益	3,884,401	3,784,660
特別利益		
投資有価証券償還益	1,136	2,459
投資有価証券売却益	122	31,117
特別利益計	1,259	33,577
特別損失		
固定資産除却損	※ 2 688	5,302
投資有価証券償還損	84,238	-
投資有価証券評価損	65,553	51,557
投資有価証券売却損	464,272	2,724
特別損失計	614,753	59,583
税引前当期純利益	3,270,907	3,758,653
法人税、住民税及び事業税	1,206,047	1,817,726
法人税等調整額	369,088	△ 722,069
法人税等合計	1,575,135	1,095,656
当期純利益	1,695,771	2,662,997

（３）【株主資本等変動計算書】

（単位：千円）

	第 24 期 （自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日）	第 25 期 （自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日）
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,000,000	2,000,000
当期末残高	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	8,628,984	8,628,984
当期末残高	8,628,984	8,628,984
資本剰余金合計		
前期末残高	8,628,984	8,628,984
当期末残高	8,628,984	8,628,984
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	284,245	284,245
当期末残高	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金		
前期末残高	60,000	60,000
当期末残高	60,000	60,000
別途積立金		
前期末残高	1,476,959	1,476,959
当期末残高	1,476,959	1,476,959
繰越利益剰余金		
前期末残高	13,483,283	12,356,655
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,822,400	△ 846,720
当期純利益	1,695,771	2,662,997
当期変動額合計	△ 1,126,628	1,816,277
当期末残高	12,356,655	14,172,932
利益剰余金合計		
前期末残高	15,304,488	14,177,860
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,822,400	△ 846,720
当期純利益	1,695,771	2,662,997
当期変動額合計	△ 1,126,628	1,816,277
当期末残高	14,177,860	15,994,137
株主資本合計		
前期末残高	25,933,472	24,806,844
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,822,400	△ 846,720
当期純利益	1,695,771	2,662,997

当期変動額合計	△ 1,126,628	1,816,277
当期末残高	24,806,844	26,623,121

評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	25,392	△ 5,805
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 31,197	88,361
当期変動額合計	△ 31,197	88,361
当期末残高	△ 5,805	82,556
評価・換算差額合計		
前期末残高	25,392	△ 5,805
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 31,197	88,361
当期変動額合計	△ 31,197	88,361
当期末残高	△ 5,805	82,556
純資産合計		
前期末残高	25,958,864	24,801,038
当期変動額		
剰余金の配当	△ 2,822,400	△ 846,720
当期純利益	1,695,771	2,662,997
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 31,197	88,361
当期変動額合計	△ 1,157,826	1,904,639
当期末残高	24,801,038	26,705,677

重要な会計方針

項目	第24期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第25期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	満期保有目的の債券 償却原価法 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により 処理し、売却原価は移動平均法に より算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法	満期保有目的の債券 同左 子会社株式及び関連会社株式 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2 固定資産の減価償却の方法	有形固定資産 定率法によっております。但し、建物（建 物附属設備を除く）については、定額法 によっております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであ ります。 建物 3～50年 器具備品 3～20年 無形固定資産 定額法によっております。	有形固定資産 同左 無形固定資産 同左
3 引当金の計上基準 (1) 賞与引当金 (2) 退職給付引当金	従業員賞与の支給に充てるため、将来の 支給見込額のうち当期の負担額を計上し ております。 従業員の退職金支給に備えるため、当事 業年度末における退職給付債務に基づき 計上しております。 過去勤務債務については、その発生時に おいて一時に費用処理しております。 数理計算上の差異については、その発生 時において一時に費用処理しております。	同左 従業員の退職金支給に備えるため、当事 業年度末における退職給付債務に基づき 計上しております。 過去勤務債務については、その発生時に おいて一時に費用処理しております。 数理計算上の差異については、その発生 時において一時に費用処理しております。 (会計方針の変更) 当事業年度より、「退職給付に係る会計 基準」の一部改正（その3）（企業会計 基準第19号 平成20年7月31日）を適用 しております。この変更が当事業年度の 損益に与える影響はありません。また、本 会計基準の適用に伴い発生する退職給付 債務の差額ははありません。
4 リース取引の処理方法	所有権移転外ファイナンス・リース取引 のうち、リース取引開始日が平成20年4 月1日前に開始する事業年度に属するも のについては、通常の賃貸借取引に係る 方法に準じた会計処理によっております。	—
5 その他財務諸表作成のため の基本となる重要な事項	消費税等の会計処理は税抜方式によって おります。	同左

会計方針の変更

(会計処理の変更)

第24期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第25期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
リース取引に関する会計基準 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」（平成19年3月30日 企業会計基準委員会）及び企業会計基準適用指針第16号「リース取引に関する会計基準の適用指針」（同前）が平成20年4月1日以後開始する事業年度から適用されることになったことに伴い、当事業年度から同会計基準及び適用指針を適用しております。 当事業年度において、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理による取引はありません。	—

注 記 事 項

(貸借対照表関係)

第24期 (平成21年3月31日現在)	第25期 (平成22年3月31日現在)
※ 1 有形固定資産の減価償却累計額 建 物 150,704千円 器具備品 941,423千円 無形固定資産の減価償却累計額 電話加入権 72千円 商標権 11,337千円	※ 1 有形固定資産の減価償却累計額 建 物 172,855千円 器具備品 863,358千円 無形固定資産の減価償却累計額 電話加入権 83千円 商標権 13,282千円
※ 2 関係会社に対する債権債務 現金及び預金 10,311,398千円 未収投資助言報酬 398,818千円 未払手数料 331,400千円	※ 2 関係会社に対する債権債務 現金及び預金 10,591,647千円 未収投資助言報酬 295,911千円 未払手数料 441,536千円
3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。 当事業年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。 当座貸越極度額の総額 10,000,000千円 借入実行残高 一千円 差引額 10,000,000千円	3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座貸越契約を締結しております。 当事業年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。 当座貸越極度額の総額 10,000,000千円 借入実行残高 一千円 差引額 10,000,000千円
4 当社は、子会社であるSumitomo Mitsui Asset Management(New York)Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、平成27年6月までの賃借料総額128,926千円の支払保証を行っております。	4 当社は、子会社であるSumitomo Mitsui Asset Management(New York)Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、平成27年6月までの賃借料総額102,815千円の支払保証を行っております。

(損益計算書関係)

第24期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第25期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
※1 関係会社との取引に係るもの 受取利息 18,943千円	※1 関係会社との取引に係るもの 受取利息 5,916千円
※2 固定資産除却損は、器具備品688千円であります。	※2 固定資産除却損は、器具備品5,302千円であります。

(株主資本等変動計算書関係)

第24期(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1.発行済株式数に関する事項

	前期末株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	—	—	17,640株

2.剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,822,400	160,000	平成20年 3月31日	平成20年 6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの
平成21年6月30日開催の第24回定時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月30日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	846,720	48,000	平成21年 3月31日	平成21年 7月1日

第25期(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1.発行済株式数に関する事項

	前期末株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	—	—	17,640株

2.剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月30日 定時株主総会	普通株式	846,720	48,000	平成21年 3月31日	平成21年 7月1日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの
平成22年6月24日開催の第25回定時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,323,000	75,000	平成22年 3月31日	平成22年 6月25日

(リース取引関係)

第24期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第25期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側) ①リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額(単位：千円) 器具備品 合計 取得価額相当額 5,330 5,330 減価償却累計額相当額 5,330 5,330 期末残高相当額 - - ②未経過リース料期末残高相当額(単位：千円) 1年以内 - 合計 - ③支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 (単位：千円) 支払リース料 2,067 減価償却費相当額 1,900 支払利息相当額 37 ④減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 利息相当額の算定方法 ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。	— <

（金融商品関係）

第25期(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っています。そのため、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない運用を行っています。また、資金調達及びデリバティブ取引は行っていません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

有価証券及び投資有価証券については、主に満期保有目的の債券及び事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、全額出資の海外子会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。また、長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金等であり、差入先の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

満期保有目的の債券は、余資運用規則に基づき、短期の国債のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

有価証券、投資有価証券及び子会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

長期差入保証金についても、差入先の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

②市場リスクの管理

有価証券及び投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、総務人事部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格及び業界団体が公表する売買参考統計値等に基づく価額のほか、これらの価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（（注2）参照）。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	15,484,883	15,484,883	—
(2)未収委託者報酬	3,405,895	3,405,895	—
(3)未収運用受託報酬	456,672	456,672	—
(4)未収投資助言報酬	426,716	426,716	—
(5)有価証券及び投資有価証券			
①満期保有目的の債券	2,999,185	2,999,100	△85
②その他有価証券	6,874,409	6,874,409	—
(6)長期差入保証金	681,764	681,764	—
資産計	30,329,527	30,329,442	△85
(1)未払金			
①未払手数料	1,523,402	1,523,402	—
負債計	1,523,402	1,523,402	—

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収運用受託報酬及び(4)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(5)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、債券については業界団体が公表する売買参考統計値等によって、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6)長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(1)未払金

①未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

	貸借対照表計上額
その他有価証券	
非上場株式	298
投資証券	48,443
合計	48,741
子会社株式	
非上場株式	236,178
合計	236,178

その他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、「(5)②その他有価証券」には含めておりません。また、上記の表中にある「貸借対照表計上額」は、減損処理後の帳簿価額です。当事業年度における減損処理額は、51,557千円です。

子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしていません。

（注3）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	15,484,883	—	—	—
未収委託者報酬	3,405,895	—	—	—
未収運用受託報酬	456,672	—	—	—
未収投資助言報酬	426,716	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	3,000,000	—	—	—
その他有価証券のうち				
満期があるもの	—	—	—	—
長期差入保証金	2,289	679,475	—	—
合計	22,776,457	679,475	—	—

（追加情報）

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

（有価証券関係）

第24期(平成21年3月31日現在)

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)貸借対照表日の時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—
小計	—	—	—
(2)貸借対照表日の時価が貸借対照表計上額を超えないもの	2,998,947	2,998,800	△147
小計	2,998,947	2,998,800	△147
合計	2,998,947	2,998,800	△147

2. その他有価証券で時価のあるもの

（単位：千円）

区分	取得原価	貸借対照表計上額	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
投資信託等	329,907	346,809	16,902
小計	329,907	346,809	16,902
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
投資信託等	2,117,725	2,095,017	△22,707
小計	2,117,725	2,095,017	△22,707
合計	2,447,632	2,441,827	△5,805

3. 時価評価されていない有価証券の内容及び貸借対照表計上額

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	摘要
(1)子会社株式 子会社株式	236,178	
合計	236,178	
(2)その他有価証券 非上場株式 投資証券	298 100,000	
合計	100,298	

4. 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
882,530	122	464,272

5. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の決算日後における償還予定額

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
(1)満期保有目的の債券 国債・地方債等	3,000,000	—	—	—
小計	3,000,000	—	—	—
(2)その他有価証券	—	—	—	—
小計	—	—	—	—
合計	3,000,000	—	—	—

第25期(平成22年3月31日現在)

1. 満期保有目的の債券

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)貸借対照表日の時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—
小計	—	—	—
(2)貸借対照表日の時価が貸借対照表計上額を超えないもの	2,999,185	2,999,100	△85
小計	2,999,185	2,999,100	△85
合計	2,999,185	2,999,100	△85

2. 子会社株式及び関連会社株式

子会社及び関連会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式236,178千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. その他有価証券

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	2,484,337	2,253,148	231,189
小計	2,484,337	2,253,148	231,189
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	4,390,071	4,483,035	△92,963
小計	4,390,071	4,483,035	△92,963
合計	6,874,409	6,736,184	138,225

(注) 非上場株式等（貸借対照表計上額 48,741千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

4. 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,539,393	31,117	2,724

(デリバティブ取引関係)

第24期(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

第25期(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

第24期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	第25期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																														
1. 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。 2. 退職給付債務の額 (単位：千円) <table> <tr> <td>退職給付債務</td><td>972,202</td></tr> <tr> <td>退職給付引当金</td><td><u>972,202</u></td></tr> </table> 3. 退職給付費用の額 (単位：千円) <table> <tr> <td>勤務費用</td><td>145,258</td></tr> <tr> <td>利息費用</td><td>12,449</td></tr> <tr> <td>過去勤務債務の費用処理額</td><td>87,363</td></tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td><td>6,153</td></tr> <tr> <td>その他</td><td><u>11,409</u></td></tr> <tr> <td>退職給付費用</td><td><u>262,634</u></td></tr> </table> 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 退職給付見込額の期間配分方法 勤務期間を基準とする方法 割引率 1.5% 過去勤務債務の額の処理年数 1年（発生時において費用処理する方法） 数理計算上の差異の処理年数 1年（発生時において費用処理する方法）	退職給付債務	972,202	退職給付引当金	<u>972,202</u>	勤務費用	145,258	利息費用	12,449	過去勤務債務の費用処理額	87,363	数理計算上の差異の費用処理額	6,153	その他	<u>11,409</u>	退職給付費用	<u>262,634</u>	1. 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。 2. 退職給付債務の額 (単位：千円) <table> <tr> <td>退職給付債務</td><td>1,137,766</td></tr> <tr> <td>退職給付引当金</td><td><u>1,137,766</u></td></tr> </table> 3. 退職給付費用の額 (単位：千円) <table> <tr> <td>勤務費用</td><td>154,625</td></tr> <tr> <td>利息費用</td><td>14,583</td></tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td><td>12,466</td></tr> <tr> <td>その他</td><td><u>15,677</u></td></tr> <tr> <td>退職給付費用</td><td><u>197,352</u></td></tr> </table> (注) その他は、その他の関係会社からの出向者の年金掛金負担分と退職給付引当額相当額負担分になります。 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 退職給付見込額の期間配分方法 勤務期間を基準とする方法 割引率 1.5% 過去勤務債務の額の処理年数 1年（発生時において費用処理する方法） 数理計算上の差異の処理年数 1年（発生時において費用処理する方法）	退職給付債務	1,137,766	退職給付引当金	<u>1,137,766</u>	勤務費用	154,625	利息費用	14,583	数理計算上の差異の費用処理額	12,466	その他	<u>15,677</u>	退職給付費用	<u>197,352</u>
退職給付債務	972,202																														
退職給付引当金	<u>972,202</u>																														
勤務費用	145,258																														
利息費用	12,449																														
過去勤務債務の費用処理額	87,363																														
数理計算上の差異の費用処理額	6,153																														
その他	<u>11,409</u>																														
退職給付費用	<u>262,634</u>																														
退職給付債務	1,137,766																														
退職給付引当金	<u>1,137,766</u>																														
勤務費用	154,625																														
利息費用	14,583																														
数理計算上の差異の費用処理額	12,466																														
その他	<u>15,677</u>																														
退職給付費用	<u>197,352</u>																														

(税効果会計関係)

第24期 (平成21年3月31日現在)	第25期 (平成22年3月31日現在)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：千円)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (単位：千円)
(1) 流動の部	(1) 流動の部
繰延税金資産	繰延税金資産
賞与引当金 118,748	賞与引当金 119,486
未払社会保険料 12,792	未払社会保険料 12,746
未払事業所税 6,134	未払事業税 100,639
その他 <u>5,436</u>	未払事業所税 6,089
繰延税金資産計 143,111	その他 <u>5,807</u>
評価性引当額 <u>—</u>	繰延税金資産計 244,770
繰延税金資産合計 143,111	評価性引当額 <u>—</u>
繰延税金負債	繰延税金資産合計 <u>244,770</u>
未収還付税金 <u>74,316</u>	繰延税金資産の純額 <u>244,770</u>
繰延税金負債合計 <u>74,316</u>	
繰延税金資産の純額 <u>68,795</u>	
(2) 固定の部	(2) 固定の部
繰延税金資産	繰延税金資産
退職給付引当金 395,589	退職給付引当金 462,957
ソフトウェア償却 101,933	ソフトウェア償却 111,245
投資有価証券評価損 56,627	投資有価証券評価損 73,440
特定外国子会社留保金額 193,760	特定外国子会社留保金額 213,896
その他有価証券評価差額金 2,362	その他 <u>8,735</u>
その他 <u>14,742</u>	繰延税金資産計 870,274
繰延税金資産計 765,014	評価性引当額 <u>△289,785</u>
評価性引当額 <u>△730,620</u>	繰延税金資産合計 580,489
繰延税金資産合計 <u>34,393</u>	繰延税金負債
繰延税金資産の純額 <u>34,393</u>	その他有価証券評価差額金 <u>55,668</u> 繰延税金負債合計 <u>55,668</u> 繰延税金資産の純額 <u>524,820</u>
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 (%)	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 (%)
法定実効税率 40.7	法定実効税率 40.7
(調整)	(調整)
評価性引当額の増減 5.4	評価性引当額の増減 <u>△11.6</u>
交際費等永久に損金に算入されない項目 0.5	交際費等永久に損金に算入されない項目 0.2
住民税均等割等 0.2	住民税均等割等 0.1
その他 <u>1.4</u>	その他 <u>△0.2</u>
税効果会計適用後の法人税等の負担率 <u>48.2</u>	税効果会計適用後の法人税等の負担率 <u>29.1</u>

(関連当事者情報)

第24期(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1. 親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
その他の関係会社	住友生命保険(相)	大阪府大阪市中央区	199,000,000	生命保険業	% (被所有)直接 40	当社の主要顧客 投信の販売委託	投資助言報酬 委託販売手数料	1,151,492 227,288	未収投資助言報酬 未払手数料	267,215 34,564
その他の関係会社	(株)三井住友銀行	東京都千代田区	664,986,500	銀行業	% (被所有)直接27.5	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売手数料	2,114,655	未払手数料	180,287

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1)投資助言契約の受託については、当社規定の投資助言料率に基づき決定しております。

(2)その他営業取引については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

(追加情報)

当事業年度から平成18年10月17日公表の、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準委員会 企業会計基準第11号）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 企業会計基準第13号）を適用しております。

第25期(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
その他の関係会社	住友生命保険(相)	大阪府大阪市中央区	199,000,000	生命保険業	% (被所有)直接 40	当社の主要顧客	投資助言報酬	1,125,661	未収投資助言報酬	295,911
その他の関係会社	(株)三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	% (被所有)直接27.5	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売手数料	2,495,661	未払手数料	347,340

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1)投資助言契約の受託については、一般取引条件を勘案した個別契約に基づき決定しております。

(2)投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. その他の関係会社の子会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
その他の関係会社の子会社	日興コーディアル証券(株)	東京都千代田区	10,000,000	証券業	% —	投信の販売委託	委託販売手数料	1,019,546	未払手数料	238,828

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1)投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

（１株当たり情報）

第24期 (自 平成20年４月１日 至 平成21年３月31日)	第25期 (自 平成21年４月１日 至 平成22年３月31日)
1株当たり純資産額 1,405,954円57銭 1株当たり当期純利益 96,132円19銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 (1株当たり純資産額の算定上の基礎) 貸借対照表の純資産の部の合計額 24,801,038千円 普通株式に係る純資産額 24,801,038千円 普通株式の発行済株式数 17,640株 1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 17,640株 (1株当たり当期純利益の算定上の基礎) 損益計算書上の当期純利益 1,695,771千円 普通株式に係る当期純利益 1,695,771千円 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 普通株式の期中平均株式数 17,640株	1株当たり純資産額 1,513,927円30銭 1株当たり当期純利益 150,963円55銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 (1株当たり純資産額の算定上の基礎) 貸借対照表の純資産の部の合計額 26,705,677千円 普通株式に係る純資産額 26,705,677千円 普通株式の発行済株式数 17,640株 1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 17,640株 (1株当たり当期純利益の算定上の基礎) 損益計算書上の当期純利益 2,662,997千円 普通株式に係る当期純利益 2,662,997千円 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 普通株式の期中平均株式数 17,640株

（重要な後発事象）

第24期(自 平成20年４月１日 至 平成21年３月31日)

該当事項はありません。

第25期(自 平成21年４月１日 至 平成22年３月31日)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- イ 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ロ 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ハ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ニ 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ホ 上記ハ、ニに掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

イ 定款の変更、その他の重要事項

平成22年6月24日に開催された定時株主総会において、監査体制の一層の充実を図るため、監査役の員数を1名増員し5名以内とする定款の変更が決議されました。

- ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実
該当ありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

イ 受託会社

- (イ) 名称 住友信託銀行株式会社
- (ロ) 資本金の額 342,037百万円（平成22年3月末現在）
- (ハ) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

【参考情報：再信託受託会社の概要】

- ・ 名称 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・ 資本金の額 51,000百万円（平成22年3月末現在）
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

ロ 販売会社

(イ) 名称	(ロ) 資本金の額 [※]	(ハ) 事業の内容
SMBCフレンド証券株式会社	27,270百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	47,937百万円	
岡三証券株式会社	5,000百万円	
上光証券株式会社	500百万円	
東洋証券株式会社	13,494百万円	
日興コーディアル証券株式会社	10,000百万円	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	3,000百万円	
山形証券株式会社	100百万円	
楽天証券株式会社	7,477百万円	
株式会社関西アーバン銀行	47,039百万円	銀行法に基づき、銀行業を営んでいます。
スタンダードチャータードバンク 東京支店	1,064,505百万円	
株式会社北海道銀行	93,524百万円	
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき、信託業務を営んでいます。
住友生命保険相互会社	369,000百万円	保険業法に基づき、保険業を営んでいます。
三井生命保険株式会社	167,280百万円	

※資本金の額は、平成22年3月末現在。

ただし、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社の資本金の額は平成22年5月1日現在。

※住友生命保険相互会社の資本金の額は、平成22年3月末現在の基金および基金償却積立金の合計額を記載

しております。

ハ 投資顧問会社（運用の委託先）

- （イ）名称 ルーミス・セイレス・アンド・カンパニー・エル・ピー
- （ロ）資本金の額 100,070千米ドル（平成21年9月末日現在）
- （ハ）事業の内容 1926年に設立された米国の運用会社であり、年金を含む大手機関投資家と富裕層の投資家に向けて、資産運用を行っています。

2【関係業務の概要】

イ 受託会社

信託契約の受託会社であり、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

ロ 販売会社

委託会社との間で締結された販売契約に基づき、日本における当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、一部解約の実行の請求の受付け、収益分配金、償還金の支払事務等を行います。

ハ 投資顧問会社（運用の委託先）

委託会社との間で締結される投資一任契約（運用委託契約）に基づき、当ファンドが主要投資対象とするマザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。

3【資本関係】

販売会社である住友生命保険相互会社は、委託会社株式を7,056株（持株比率40.0%）保有しています。

販売会社である三井生命保険株式会社は、委託会社株式を882株（持株比率5.0%）保有しています。

第3【参考情報】

当計算期間において書類が以下の通り提出されております。

提出年月日	書類名
平成22年1月4日	臨時報告書
平成22年3月18日	有価証券報告書
平成22年3月18日	有価証券届出書
平成22年4月1日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

平成22年8月10日

三井住友アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 鈴木 敏夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・USボンドオープン（為替ノーヘッジ型）の平成21年12月22日から平成22年6月21日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・USボンドオープン（為替ノーヘッジ型）の平成22年6月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

三井住友アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- （注）1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年2月16日

三井住友アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指 定 社 員 公認会計士 鈴木 敏夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・USボンドオープン（為替ノーヘッジ型）の平成21年6月23日から平成21年12月21日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・USボンドオープン（為替ノーヘッジ型）の平成21年12月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

三井住友アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- （注）1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（前期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成22年6月18日

三井住友アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指 定 社 員 公認会計士 鈴木 敏 夫 印
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 辰 巳 幸 久 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友アセットマネジメント株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友アセットマネジメント株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の監査報告書

平成21年6月26日

三井住友アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指 定 社 員 公認会計士 鈴木 敏 夫 印
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 辰 巳 幸 久 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友アセットマネジメント株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友アセットマネジメント株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。